Ⅱ. 講 義 概 要

１．基 礎 教 育 科 目

①開講年次配当科目

②開講年次非配当科目

２．専門教育科目・専門基礎分野

①１年次開講科目

②２年次開講科目

③３年次開講科目

④４年次開講科目

３．専門教育科目・専門分野

①１年次開講科目

②２年次開講科目

③３年次開講科目

④４年次開講科目

1. 基 礎 教 育 科 目

① 開講年次配当科目（1・2年次開講科目）

ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠA ····· 23

ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠB ····· 24

ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡA ····· 25

ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡB ····· 26

ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠA ····· 27

ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠB ····· 28

ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡA ····· 29

ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡB ····· 30

情 報 リ テ ラ シ ー ····· 31

② 開講年次非配当科目

芸　　術 ····· 32

哲　　学 ····· 33

倫　理　学 ····· 34

心　理　学 ····· 35

人 間 関 係 論 ····· 36

比 較 文 化 論 ····· 37

日 本 文 化 史 ····· 38

日 本 語 論 ····· 39

法　　学 …… 40
日本国憲法 …… 41
経　　済　　学 …… 42
社　　会　　学 …… 43
基　礎　数　学 …… 44
統　　計　　学 …… 45
自然科学概論 …… 46
フランス語 I …… 47
フランス語 II …… 48
中　国　語 I …… 49
中　国　語 II …… 50
スポーツ科学 …… 51
スポーツ I …… 52
スポーツ II …… 53
生涯スポーツ I …… 54
生涯スポーツ II …… 55
異文化コミュニケーション …… 56
海外文化事情 …… 57

2. 専門教育科目・専門基礎分野

① 1年次開講科目

Ｐ　Ｒ　学　入　門 …… 59
文　章　作　成　法 …… 60
情　報　文　化　論 …… 61
社　会　調　査　入　門 …… 62
近　代　現　代　史 …… 63
文　章　作　成　演　習 …… 64
ｸﾘﾃｨｶﾙｼﾝｷﾝｸﾞ入門 …… 65
企　業　Ｉ　Ｔ　ｼｽﾃﾑ論 …… 66
デ　ー　タ　解　析 …… 67
マ　ル　チ　メ　デ　ィ　ア　論 …… 68
現　代　文　学 …… 69
経　営　学　入　門 …… 70

② 2年次開講科目

ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習 …… 71
社　会　意　識　論 …… 72
企　業　Ｉ　Ｔ　ｼｽﾃﾑ演　習 …… 73
ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演　習 …… 74
社　会　調　査　方　法 …… 75

ジェンダー論 …… 76
レトリックの基礎 …… 77
社会調査実習 …… 78
量的データ解析 …… 79
視覚情報処理論 …… 80
Ｗｅｂデザイン …… 81

③ 3年次開講科目

ﾒﾃﾞｨｱ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ …… 82
科学思想史 …… 83
ﾒﾃﾞｨｱ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ …… 84

④ 4年次開講科目

環境と安全 …… 85

3. 専門教育科目・専門分野

① 1年次開講科目

ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ概論 …… 87

ＰＲ概論Ⅰ …… 88

ジャーナリズム史 …… 89

② 2年次開講科目

ＰＲ概論Ⅱ …… 90

ブランド論 …… 91

広告概論Ⅰ …… 92

広報概論 …… 93

新聞論Ⅰ …… 94

マーケットリサーチ …… 95

ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 …… 96

広告概論Ⅱ …… 97

広報各論 …… 98

メディアと法 …… 99

新聞論Ⅱ …… 100

放送論 …… 101

ﾏｰｹｯﾄﾘｻｰﾁ演習 …… 102

放送番組・ＣＭ論 …… 103

中小企業論 …… 104

③ 3年次開講科目

ＰＲﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ演習 …… 105

ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習 …… 106

ﾒﾃﾞｨｱﾘﾚｰｼｮﾝｽﾞ概論 …… 107

危機管理論 …… 108

広告各論Ⅰ …… 109

ＰＲﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ演習 …… 110

イベント企画演習 …… 111

ネットＰＲ …… 112

ジャーナリズム特論 …… 113

映像制作論 …… 114

ﾒﾃﾞｨｱﾘﾚｰｼｮﾝｽﾞ演習 …… 115

危機管理演習 …… 116

広告各論Ⅱ …… 117

ﾏｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 …… 118

ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特論 …… 119

番組分析論 …… 120

ＰＲ専門演習Ⅰ …… 121

ＰＲ専門演習Ⅱ …… 122

④ 4年次開講科目

広告表現論 …… 123
広告史 …… 123
メディア効果論 …… 123
地域メディア論 …… 123
産業論Ⅱ …… 123
ＮＰＯ・ＮＧＯ実務 …… 123
卒業演習 …… 124
卒業研究 …… 124
インターンシップ …… 125

インテンシブ・イングリッシュIA

基礎　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位 演習　必修

ジェームズ・ランドカマー

概　　要　「聞く」「話す」英語の基礎を総合的に学習する。

達成目標　高等学校までに学習した英文構造、文法、語彙を用いて話すことの基本を身につけ、ペアワークやネイティブ・スピーカーとの対話練習を通して、積極的に英語でコミュニケーションを図ることができるようにする。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション プレイスメント・テスト
第２週	UNITS 9 & 10 PRESENT TENSE, NEGATIVES
第３週	UNITS 9 & 10 PRESENT TENSE, NEGATIVES
第４週	UNITS 9 & 10 PRESENT TENSE, NEGATIVES
第５週	UNITS 11 & 12 ADVERBS OF FREQUENCY, OBJECT PRONOUNS, PRESENT CONTINUOUS TENSE, ADJECTIVES
第６週	UNITS 11 & 12 ADVERBS OF FREQUENCY, OBJECT PRONOUNS, PRESENT CONTINUOUS TENSE, ADJECTIVES
第７週	UNITS 11 & 12 ADVERBS OF FREQUENCY, OBJECT PRONOUNS, PRESENT CONTINUOUS TENSE, ADJECTIVES
第８週	REVIEW TEST UNITS 13 & 14 CAN, HAVE TO, FUTURE TENSE, TIME EXPRESSIONS, WANT TO
第９週	REVIEW TEST UNITS 13 & 14 CAN, HAVE TO, FUTURE TENSE, TIME EXPRESSIONS, WANT TO
第10週	REVIEW TEST UNITS 13 & 14 CAN, HAVE TO, FUTURE TENSE, TIME EXPRESSIONS, WANT TO
第11週	UNITS 15, 16 & 17 PAST TENSE, WH-QUESTIONS, TIME EXPRESSIONS
第12週	UNITS 15, 16 & 17 PAST TENSE, WH-QUESTIONS, TIME EXPRESSIONS
第13週	UNITS 15, 16 & 17 PAST TENSE, WH-QUESTIONS, TIME EXPRESSIONS
第14週	TEST
第15週	TEST REVIEW

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合評価する。

授業方法・受講上の注意

初回の授業に必ず出席し担当者の指示に従うこと。

テキスト

Side by Side Book 1B. Steven J. Molinsky & Bill Bliss. Longman.

参考図書など

適宜紹介する。

インテンシブ・イングリッシュIB

基礎　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位 演習　必修

佐久間　重

概　　要　「読む」「書く」英語力の基礎を養う。高等学校までに培った読む英語の基礎を生かし、それを向上させるために、新聞や雑誌から様々な教材を選んで学習して行く。また、英語を読む力を英文を書く力に結びつけるようにするために、読解用の教材に出て来る英語表現を使い、英文を書く練習をする。毎回の講義でvideo教材を使い、英語の総合力を養う。

達成目標　３００字程度の日本に関する英字新聞の記事を速読し、内容を正確に把握出来るようにする。日本文の簡単な新聞記事を英語文に出来るようにする。語彙をの増加、正確な文章構造の把握、表現力の向上を図り、TOEIC４７０点以上の得点が出来る英語力を養う。

教 授 計 画

第１週	授業の進め方について。
第２週	高校卒業までの英語文法基礎の確認（１）
第３週	高校卒業までの英語文法基礎の確認（２）
第４週	高校卒業までの英語文法基礎の確認（３）
第５週	高校卒業までの英語文法基礎の確認（４）
第６週	高校卒業までの英語文法基礎の確認（５）
第７週	英文記事の読解（１）
第８週	英文記事の読解（２）
第９週	英文記事の読解（３）
第10週	簡単な英文の作成（１）
第11週	簡単な英文の作成（２）
第12週	簡単な英文の作成（３）
第13週	簡単な英文の作成（４）
第14週	TOEIC問題との取り組み（１）
第15週	TOEIC問題との取り組み（２）

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

単に授業に出るだけでなく、授業中に様々な作業をする必要がある。授業には必ず英和辞書を持参すること。

テキスト

プリントを配布する。

参考図書など

適宜紹介する。

インテンシブ・イングリッシュIIA

基礎　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位 演習　必修

ジェームズ・ランドカマー

概　　要　前期に身につけた「聞く」「話す」英語力を向上させることを目的として、さらに「聞く」「話す」英語を総合的に学習する。

達成目標　IA に引き続いて基本的な英文構造、文法、語彙を用いて話すことの基本を身に付け、ペアワークやネイティブ・スピーカーとの対話練習を通して、積極的に英語でコミュニケーションを図ることができるようにする。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション
第２週	UNIT 1　REVIEW OF TENSES: PRESENT, PAST, FUTURE
第３週	UNIT 1　REVIEW OF TENSES: PRESENT, PAST, FUTURE
第４週	UNIT 1　REVIEW OF TENSES: PRESENT, PAST, FUTURE
第５週	UNITS 2 & 3　PARTITIVES　COUNT & NO-COUNT NOUNS　IMPERATIVES
第６週	UNITS 2 & 3　PARTITIVES　COUNT & NO-COUNT NOUNS　IMPERATIVES
第７週	UNITS 2 & 3　PARTITIVES　COUNT & NO-COUNT NOUNS　IMPERATIVES
第８週	REVIEW TEST UNITS 4 & 5　WILL, MIGHT, SHOULD, COMPARATIVES
第９週	REVIEW TEST UNITS 4 & 5　WILL, MIGHT, SHOULD, COMPARATIVES
第10週	REVIEW TEST UNITS 4 & 5　WILL, MIGHT, SHOULD, COMPARATIVES
第11週	UNITS 6 & 7　SUPERLATIVES, GIVING DIRECTIONS
第12週	UNITS 6 & 7　SUPERLATIVES, GIVING DIRECTIONS
第13週	UNITS 6 & 7　SUPERLATIVES, GIVING DIRECTIONS
第14週	TEST
第15週	TEST REVIEW

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合評価する。

授業方法・受講上の注意

授業には辞書を持参すること。

テキスト

Side by Side Book 2A. Steven J. Molinsky & Bill Bliss. Longman.

参考図書など

適宜紹介する。

インテンシブ・イングリッシュIIB

基礎　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位 演習　必修

佐久間　重

概　　要　インテンシブ・イングリッシュＩＢよりも進んだ内容とし、さらに「読む」「書く」英語力の向上を図って行く。毎回の講義でvideo教材を使い、英語の総合力を養う。

達成目標　５００字程度の日本に関する英字新聞の記事を速読し、内容を正確に把握出来るようにする。日本文の簡単な新聞記事を英語文に出来るようにする。語彙をの増加、正確な文章構造の把握、表現力の向上を図り、TOEIC５５０点以上の得点が出来る英語力を養う。

教 授 計 画

第１週	授業の進め方について
第２週	高校卒業までの英語文法の確認（１）
第３週	高校卒業までの英語文法の確認（２）
第４週	高校卒業までの英語文法の確認（３）
第５週	高校卒業までの英語文法の確認（４）
第６週	高校卒業までの英語文法の確認（５）
第７週	新聞社説の英訳文の講読（１）
第８週	新聞社説の英訳文の講読（２）
第９週	新聞社説の英訳文の講読（３）
第10週	新聞社説の英訳文の講読（４）
第11週	新聞社説の英訳文の講読（５）
第12週	新聞社説の英訳文の講読（６）
第13週	TOEIC問題との取り組み（１）
第14週	TOEIC問題との取り組み（２）
第15週	TOEIC問題との取り組み（３）

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

単に授業に出るだけでなく、授業中に様々な作業をする必要がある。授業には必ず英和辞書を持参すること。

テキスト

プリントを配布する。

参考図書など

適宜紹介する。

イングリッシュ・コミュニケーションIA

基礎　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 演習　選択

ジェームズ・ランドカマー

概　　要　1 年次に学習したインテンシブ・イングリッシュIA およびIIA に続けて、さらに「聞く」「話す」英語力を向上させることを目的として英語を総合的に学習する。

達成目標　ペアワーク、ネイティブ・スピーカーとの対話練習を通して、状況に応じてより適切な応答ができるよう、コミュニケーション能力を磨く。

教 授 計 画

第１週	UNIT 1 REVIEW OF TENSES PRONOUNS POSSESSIVE ADJECTIVES
第２週	UNIT 1 REVIEW OF TENSES PRONOUNS POSSESSIVE ADJECTIVES
第３週	UNIT 1 REVIEW OF TENSES PRONOUNS POSSESSIVE ADJECTIVES
第４週	UNIT 2 REVIEW OF TENSES PAST CONTINUOUS TENSE
第５週	UNIT 2 REVIEW OF TENSES PAST CONTINUOUS TENSE
第６週	UNIT 2 REVIEW OF TENSES PAST CONTINUOUS TENSE
第７週	UNIT 3 FUTURE TENSES POSSESSIVE PRONOUNS
第８週	UNIT 3 FUTURE TENSES POSSESSIVE PRONOUNS
第９週	UNIT 3 FUTURE TENSES POSSESSIVE PRONOUNS
第10週	UNITS 4 & 5 PRESENT PERFECTIVE TENSE SINCE / FOR PRESENT PERFECT CONTINUOUS TENSE
第11週	UNITS 4 & 5 PRESENT PERFECTIVE TENSE SINCE / FOR PRESENT PERFECT CONTINUOUS TENSE
第12週	UNITS 4 & 5 PRESENT PERFECTIVE TENSE SINCE / FOR PRESENT PERFECT CONTINUOUS TENSE
第13週	REVIEW FINAL TEST
第14週	TEST
第15週	TEST REVIEW

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合評価する。

授業方法・受講上の注意

インテンシブ・イングリッシュIA およびIIA の単位を取得した受講者が望ましい。授業に必ず英和辞典を持参すること。

テキスト

Side by Side Book 3. Steven J. Molinsky & Bill Bliss. Longman.

参考図書など

適宜紹介する。

イングリッシュ・コミュニケーションIB

基礎　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 演習　選択

佐久間　重

概　　要　１年次に学習したインテンシブ・イングリッシュＩＢ及びⅡＢに続けて、さらに「読む」「書く」英語力を向上させることを目的として英語を総合的に学習する。毎回の講義でvideo教材を使い、英語の総合力を養う。

達成目標　英文の雑誌や新聞の記事を速読し、内容を正確に把握出来るようにし、社会問題への理解を深める。語彙、文法問題にも取り組み、かつTOEICの問題などにも挑戦し、実践的な読書力を身に付ける。

教 授 計 画

第１週	授業の進め方について
第２週	新聞社説の英訳（１）
第３週	新聞社説の英訳（２）
第４週	新聞社説の英訳（３）
第５週	新聞社説の英訳（４
第６週	新聞社説の英訳（５）
第７週	平易な英語論文の講読（１）
第８週	平易な英語論文の講読（２）
第９週	平易な英語論文の講読（３）
第10週	平易な英語論文の講読（４）
第11週	平易な英語論文の講読（５）
第12週	TOEIC問題との取り組み（１）
第13週	TOEIC問題との取り組み（２）
第14週	米国入国書類への記入の仕方
第15週	英文公式書類の記入の仕方

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

単に授業に出るだけでなく、授業中に様々な作業をする必要がある。授業には必ず英和辞書を持参すること。

テキスト

プリントを配布する。

参考図書など

適宜紹介する。

イングリッシュ・コミュニケーションIIA

基礎　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 演習　選択

ジェームズ・ランドカマー

概　　要　2 年前期で学習したイングリッシュ・コミュニケーションIA に続けて、さらに「聞く」「話す」英語力を向上させることを目的として英語を総合的に学習する。

達成目標　ペアワーク、ネイティブ・スピーカーとの対話練習を通して、状況に応じてより適切な応答ができるよう、コミュニケーション能力を磨く。

教 授 計 画

第１週	UNIT 6 PRESENT PERFECT CONTINUOUS TENSE
第２週	UNIT 6 PRESENT PERFECT CONTINUOUS TENSE
第３週	UNIT 7 GERUNDS, INFINITIVES, TENSE REVIEW
第４週	UNIT 7 GERUNDS, INFINITIVES, TENSE REVIEW
第５週	UNIT 8 PAST PERFECT TENSE
第６週	UNIT 8 PAST PERFECT TENSE
第７週	MIDTERM TEST
第８週	UNIT 9 TWO-WORD VERBS
第９週	UNIT 9 TWO-WORD VERBS
第10週	UNIT 9 TWO-WORD VERBS
第11週	UNIT 10 CONNECTORS
第12週	UNIT 10 CONNECTORS
第13週	UNIT 10 CONNECTORS
第14週	TEST
第15週	TEST REVIEW

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合評価する。

授業方法・受講上の注意

授業には必ず英和辞典を持参すること。

テキスト

Side by Side Book 3. Steven J. Molinsky & Bill Bliss. Longman.

参考図書など

適宜紹介する。

イングリッシュ・コミュニケーションIIB

基礎　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 演習　選択

佐久間　重

概　　要　イングリッシュ・コミュニケーションＩＢに続けて、さらに「読む」「書く」英語力を向上させることを目的として英語を総合的に学習する。毎回の講義でvideo教材を使い、英語の総合力を養う。

達成目標　英文の雑誌や新聞の記事を速読し、内容を正確に把握出来るようにし、国際問題への理解を深める。語彙、文法問題にも取り組み、かつTOEICの問題などにも挑戦し、実践的な読書力を身に付ける。英文のWeb-siteを検索し、その内容を理解出来るようにする。また、英文のe-mail作成を身に付けられるようにする。

教 授 計 画

第１週	授業の進め方について
第２週	標準的な英語論文の講読（１）
第３週	標準的な英語論文の講読（２）
第４週	標準的な英語論文の講読（３）
第５週	標準的な英語論文の講読（４）
第６週	標準的な英語論文の講読（５）
第７週	標準的な英語論文の講読（６）
第８週	米国大統領による一般教書の読解（１）
第９週	米国大統領による一般教書の読解（２）
第10週	米国大統領による一般教書の読解（３）
第11週	米国大統領による一般教書の読解（４）
第12週	米国大統領による一般教書の読解（５）
第13週	米国大統領による一般教書の読解（６）
第14週	TOEIC問題との取り組み
第15週	E-mailの作成

評価方法

授業態度、出席状況、課題、試験の成績によって総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

単に授業に出るだけでなく、授業中に様々な作業をする必要がある。授業には必ず英和辞書を持参すること。

テキスト

プリントを配布する。

参考図書など

適宜紹介する。

情報リテラシー

基礎　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位 演習　必修

横田　正恵

概　　要　情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラルを理解することを目的とする。実習はワープロ、表計算ソフトなどOfficeツールによるレポートの作成、電子メールの送受信、インターネットを使った情報検索など毎回のテーマとして課題を与え、レポートとして提出する。

達成目標　ネットワーク社会で現実に起こっている犯罪を例にとりながら情報倫理についての講義を行い、インターネット利用について最低限知っておくべきルールとマナーを習得する。また、ワープロを使ったビジネス文書作成、表計算ソフトによるデータ処理の基本、プレゼンテーション用スライドの作成技術を身につける。さらに、タッチタイピングのソフトを利用して、タイピング速度の向上を目指す。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス：情報リテラシーの内容、実習室の利用方法、アカウントの配布 情報倫理　：インターネットのルールとマナーについて
第２週	タッチタイピング実習：タイピングソフトの設定とレポートの提出
第３週	電子メール：メールソフトの設定とメールの送受信、書き方のマナー
第４週	ワープロ実習１：文書の作成と整形、レポートの提出方法について
第５週	ワープロ実習２：作表とオブジェクトの挿入
第６週	ワープロ実習３：地図を含む案内文書の作成
第７週	プレゼンテーション１：スライドの作成の基礎
第８週	プレゼンテーション２：特殊効果を利用したスライドの作成
第９週	表計算１：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力
第10週	表計算２：統計関数と論理関数を利用したデータ処理
第11週	表計算３：グラフの作成
第12週	応用演習１：Officeソフト間の連携とビジネスでの利用
第13週	応用演習２：ファイル形式、作図ソフトの紹介
第14週	応用演習３：画像ファイルの扱い、画像編集ソフトの紹介
第15週	実技試験と解説

評価方法

課題の提出状況および実技試験で評価する。

授業方法・受講上の注意

毎回コンピュータ実習を行い課題を提出していくので、遅刻や欠席のないように心がける。また、オープン実習を利用して反復練習を行い、基本的な技術を身につけること。また、コンピュータの使い方だけにとどまらず、情報倫理についても十分理解されたい。

テキスト

Type Quick for Windows（日本データパシフィック社）
『名古屋文理大学ワークブック』(名古屋文理大学ワークブック編集委員会)

参考図書など

大学生活のためのコンピュータリテラシーブック　山村皓著（オーム者）コンピュータ活用技術、小池慎一他共著（朝倉書店）

芸術

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

佐原　理

概　　要　様々な表現や発見を通して芸術を愛好する心情を育みたい。水彩画のテクニックの向上がこの授業の第１の点である。第２に構図や趣向の処理の展開を強化する。この授業の大きな目標は水彩のマジックを発見することである。このような発見や体験をもとに他の表現活動にも応用できるような基礎的な表現能力を養う。水溶性メディアの表現をそれぞれ歴史（鑑賞）、分析批評、美学、制作に分類し、それぞれ学習する。

達成目標　芸術表現を通して自然を愛好する心を養うとともに、物事をよく観て観察する「みる力」に親しむ。また、一般教養として知るべき芸術作品の鑑賞や鑑賞方法の学修を通して、芸術野有用性を理解する。また描画材によるトレーニングによって見たものを表現できるようになることが目標である。

教 授 計 画

第１週	道具の購入、デモンストレーション
第２週	描画材　えんぴつに　ドローイング　３秒デッサンで腕を動かそう
第３週	描画材　えんぴつに　ドローイング　形をゆっくり丁寧に図って描こう
第４週	描画材　えんぴつに　ドローイング　写真を基に陰影をつけてみよう　立体感を再現しよう
第５週	美術館に行こう！　まずは美術の歴史を知ろう　原初の美術から一現代美術まで
第６週	美術館に行こう！　荻須美術館に行ってみよう　パリ派の技法や歴史的背景を知ろう
第７週	水彩画に挑戦しよう　水彩絵の具　絵具の歴史を知ろう！　顔料とメジュームの関係
第８週	水彩画に挑戦しよう　水彩ワークショップ　たらし込みや、塩、パターンをつくってみよう
第９週	水彩画に挑戦しよう　水彩で立体的に表現しよう
第10週	水彩画に挑戦しよう　あじさい寺に行こう　あじさいを描く１
第11週	水彩画に挑戦しよう　あじさい寺に行こう　あじさいを描く２
第12週	水彩画に挑戦しよう　あじさい寺に行こう　あじさいを描く３
第13週	水彩画に挑戦しよう　あじさい寺に行こう　あじさいを描く４
第14週	好評会１　美術はどのような役割をもっているのか？
第15週	好評会２　作品をパネルにしよう。

評価方法

授業への関心、意欲、態度。出席.　授業時に出される課題による総合評価

授業方法・受講上の注意

水彩絵具セットを持っている事が望ましい。スケッチ帳も必要である。もっていない場合は販売をする（2000-4000円程度）

テキスト

とくに無し、

参考図書など

画集など随時紹介する

哲学

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

山田　弘明

概　　要　哲学とはどんな学問であるかを、いろいろな問題を通して具体的に概観します。知覚、コミュニケーション、ことば、こころといった現代的な主題からはじめて、存在、世界、神などの古典的なトピックスを考えます。特殊研究として、デカルト『方法序説』と西田幾多郎『善の研究』とを少し詳しく紹介します。他の授業科目の「心理学」と関連します。

達成目標　哲学の基本的な問題について知識を習得し、現代思想の最先端が理解できるようにします。また、西洋人の思想を知るとともに、日本人のものの考え方や感性を再認識することも隠れた目標です。自分で課題を発見して、それを分析する能力を養うことが目的です。これらの点は、現代社会を生きるうえで必要な教養として、ぜひ身につけて欲しいと思います。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション　哲学という学問の紹介
第２週	ものを知るとはどういうことか１
第３週	ものを知るとはどういうことか２
第４週	ことばとはなにか１
第５週	ことばとはなにか２
第６週	こころとはなにか１
第７週	こころとはなにか２
第８週	中間レポート提出とその講評
第９週	ものがあるとはどういうことか１
第10週	ものがあるとはどういうことか２
第11週	デカルト『方法序説』１
第12週	デカルト『方法序説』２
第13週	西田幾多郎『善の研究』１
第14週	西田幾多郎『善の研究』２
第15週	レポートの研究発表とその講評

評価方法

出席、メモ（６回）、レポートの提出（２回）によります。

授業方法・受講上の注意

ビデオ映像や図像も教材にします。講義で取りあげた主題について、教室でそのつどメモにまとめてもらいます。参考図書を読んでレポートを提出するなど、自分で課外学習をすることも求められます。

テキスト

なし。毎時間、講義資料を配布します。

参考図書など

苧阪直行『心と脳の科学』（岩波ジュニア新書）、デカルト『方法序説』（岩波文庫）、西田幾多郎『善の研究』（岩波文庫）、池田晶子『14才からの哲学』（トランスビュー）

倫理学

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

山田　弘明

概　　要　講義の前半では、現代の応用倫理学として環境倫理学、生命倫理学、情報倫理学、ビジネス倫理学の主要問題を扱います。なぜ今そういうことが問題になるか、それを解決するにはどうすればよいかを、実例に即して考えます。応用のためには倫理学の基礎を押さえておく必要があります。そこで、後半では、西洋の古代・近世・現代の倫理思想を概観します。

達成目標　倫理学はものごとの価値や善悪を論じる学問で、人の生き方やものの見方の根本を左右する重要な学問です。古典的な倫理学を踏まえて応用倫理学の諸問題の内容を理解すること、そして現代社会を生きるうえで必要な問題意識と倫理的センスを身につけること、が目標です。他の授業科目「ＰＲ学入門」、「経営倫理学」、「情報文化論」、「環境と安全」と関連する部分があります。

教 授 計 画

第１週	はじめに。倫理学および応用倫理学とは何か。
第２週	環境倫理学とはなにか。人間中心主義（浅いエコロジー）。
第３週	生態系保存論（深いエコロジー）。自然環境と人間との共存。
第４週	米映画『不都合な真実』鑑賞
第５週	生命倫理学とはなにか。脳死、臓器移植の現状と課題
第６週	死ぬ権利。パーソン論など。「老い」と生命倫理。
第７週	情報倫理学とはなにか。情報科学の現在。その重要性と問題性、
第８週	人工知能研究のモデル、情報化社会のモラル、知る権利と知られたくない権利。
第９週	ビジネス倫理学とは何か。職業と倫理、経営倫理学、医療ビジネス。
第10週	エコロジカル・マネジメント、技術者の責任と工学倫理。
第11週	応用倫理学の諸問題。発表とディスカッション。「鯨食文化は許されないのか」など。
第12週	西洋古代の倫理。ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ストア。
第13週	西洋近世の倫理。デカルト、ホッブズ、カント、ベンサム、ミル。
第14週	西洋現代の倫理。メタ倫理学、ロールズの正義論、レヴィナスの倫理、ハーバーマスと討議倫理学。
第15週	レポートに基づく研究発表とその講評。

評価方法

出席、レポートによります。出席を重視します。

授業方法・受講上の注意

講義だけでなく、なぜそれが問題になるのかを理解するため、テーマを決めて相互にディスカッションをします。

テキスト

なし。毎回、講義資料を配布します。

参考図書など

加藤尚武『環境倫理学のすすめ』（丸善）、今井・香川編『バイオエシックス入門」（東信堂）、田中・柘植編『ビジネス倫理学』（ナカニシヤ出版）、有福孝岳編『エチカとは何か』（同）

心理学

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

山田　ゆかり

概　　要　心理学は、行動の科学的研究によって、人間のこころの働きを解明しようとするものである。この授業では、人間が環境とのかかわりにおいて営んでいる生活行動の全体、すなわち、環境からの刺激を知覚する過程、知覚した情報を処理する過程、それをもとに環境に働きかける過程という一連の過程を視野にいれて、こころの働きについて解説していく。

達成目標　行動を通して、人間のこころの働きを全体的・力動的に理解する。また、これによって、自分自身のこころに働きについて洞察し、自己理解を深める。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス こころをどうとらえるか
第２週	環境を知るはたらき 知覚（１）　知覚の基礎
第３週	環境を知るはたらき 知覚（２）　知覚の体制化
第４週	環境を知るはたらき 知覚（３）　知覚の諸相
第５週	行動が獲得され進歩する過程 学習・記憶（１）　学習のプロセス
第６週	行動が獲得され進歩する過程 学習・記憶（２）　記憶のメカニズム
第７週	行動が獲得され進歩する過程 学習・記憶（３）　学習と記憶についての実験実習
第８週	環境への適応過程 感情（１）　感情、フラストレーション
第９週	環境への適応過程 感情（２）　ストレス
第10週	行動の個人差と独自性 パーソナリティ（１）　パーソナリティの記述
第11週	行動の個人差と独自性 パーソナリティ（２）　パーソナリティ理論
第12週	行動の個人差と独自性 パーソナリティ（３）　パーソナリティテストを用いた自己理解のための実習
第13週	行動の個人差と独自性 パーソナリティ（４）　パーソナリティの調べ方、投影法実習
第14週	こころの健康　適応と不適応
第15週	１週ー１４週のまとめと自己分析

評価方法

学期末の筆記試験、講義中に実施する課題・レポートの提出、および講義への参加度を考慮して総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

講義とともに、できるだけ実験・実習を取り入れる。
授業への継続的な出席と積極的な参加を求める。また、講義ノートをしっかり作成すること。

テキスト

二宮克美、山田ゆかり、譲西賢、天野寛、山本ちか、高橋彩 著「ベーシック心理学」 医歯薬出版（2008）

参考図書など

講義中に適宜指示または資料を配付する。

人間関係論

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 講義　選択

田川 隆博

概　　要　人間の社会性を特徴づけるのが、社会的認知・態度、相互作用、集団行動、群集行動などの諸現象である。人間関係論では、親密な他者、バーチャルな他者、集団内の人間関係といった観点から自己を形成し、自己を変容させる人間関係のあり方について考えていく。それとともに、近年問題として語られることのない、人間関係の「病理」的側面についての考察も行っていく。

達成目標　他者とは何かの考察を通して、「私」というものの存在について考察し、社会の成り立ちについて深い思考をめぐらせていくことを授業のねらいとしている。特に＜異質＞なものを＜異質＞なものとして成立させている社会条件や、集団が当たり前に個人に強いている常識などについて、より深い理解を目指す。

教 授 計 画

第１週	人間関係論とは１イントロダクション、人間関係論を学ぶ意義
第２週	人間関係論とは２セカイからシャカイを見る
第３週	「私」の成り立ちを他者の視点から考える１演じる私―誰の前なら本当の自分でいられるのか
第４週	「私」の成り立ちを他者の視点から考える２語る私―孤独と共感のあいだ
第５週	「他者」とのかかわり１親密な他者―家族内の殺人事件は「ありえない」か
第６週	「他者」とのかかわり２ヴァーチャルな他者―なぜアイドルを好きになるのか
第７週	「他者」とのかかわり３異質な他者―なぜホームレスは襲われたのか
第８週	「他者」とのかかわり４見知らぬ他者―なぜ知らない誰かの役に立とうとするのか
第９週	集団の中の人間関係１同調の力学―わたしが応えるとき、合わせるとき
第10週	集団の中の人間関係２集団のリーダー―社長の言い分と部下の言い分
第11週	集団の中の人間関係３集団のルール―正直者は馬鹿を見るか
第12週	関係としての社会１自由と連帯―つながりとは何か
第13週	関係としての社会２集団の心理と行動―なぜ民族対立は生じるのか
第14週	関係としての社会３希望と宿命―秋葉原事件再考
第15週	まとめセカイ系的人間関係と新たな共同性

評価方法

出席状況、受講態度、レポート等の提出物、および試験により評価する。

授業方法・受講上の注意

できるかぎり、コミュニケーティブな授業にしたい。そのためには、学生の積極的授業参加が求められる。質問、意見、感想などを投げかけ、学習を進めていってほしい。

テキスト

使用しない。

参考図書など

講義にて適宜紹介する。

比較文化論

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

佐久間　重

概　　要　同じ英語圏であっても、イギリスとアメリカの文化を比較すると大きな違いがあるが、こうした違いが生じて来た過程をイギリス史とアメリカ史を通じて考察することにする。イギリス史については、その初期からエリザベス女王時代までとし、アメリカ史については、植民地時代から南北戦争後までを概観する。

達成目標　同じ文化圏に属すると考えられるイギリスとアメリカの文化を比較することで、歴史的発展の違いが文化的違いを生み出すことを理解できるようにする。

教 授 計 画

第１週	今日のイギリスとアメリカの文化
第２週	イギリスの原住民とその文化的特質
第３週	ローマによるイギリス占領とそれに伴うキリスト教とローマ字のイギリスへの流入
第４週	アングロ・サクソン族の侵入
第５週	イギリスへのフランス文化の流入の背景
第６週	中世のイギリス文化の特徴
第７週	テューダー朝の絶対主義と宗教改革
第８週	シェークスピアについて
第９週	北アメリカ大陸での植民地形成の背景
第10週	アメリカの独立
第11週	合衆国の成立
第12週	アメリカの領土拡大の背景
第13週	西部への発展とアメリカ的文化の形成
第14週	南北戦争の意味
第15週	アメリカの産業主義の発展と大衆文化の形成

評価方法

講義への出席状況
試験結果

授業方法・受講上の注意

単に講義を聴いているだけでなく、質疑応答などを通じて積極的に講義に参加すること。

テキスト

なし

参考図書など

山吉信・今井宏編『概説イギリス史』有斐閣選書矢野重喜編著『新・アメリカ研究入門』成美堂

日本文化史

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 講義　選択

小林　あづみ

概　　要　私たちにとって身近な存在である茶の歴史と文化を扱う。茶が貴重な品であった時代、それはどのような意義を持ち、人々の美意識にも影響を与えたのかを学ぶ。本講義では歴史史料（漢文中心）を読み解きながら、過去の茶のありようについて理解し、現代の文化を問い直すきっかけにする。

達成目標　日本の歴史において、茶がどのように受容されたかを理解する。

教 授 計 画

第１週	講義内容と進め方、注意点などの指示
第２週	茶のルーツ
第３週	茶の伝来
第４週	薬としての茶の称揚
第５週	飲茶のゲーム化
第６週	飲茶のひろがり　１禅院
第７週	飲茶のひろがり　２バサラ
第８週	飲茶のひろがり　３
第９週	茶数寄から茶の湯へ
第10週	侘数寄の確立　１
第11週	侘数寄の確立　２
第12週	茶と花　１
第13週	茶と花　２
第14週	茶と花　３
第15週	まとめ

評価方法

試験、受講態度など

授業方法・受講上の注意

本講義は歴史史料を利用するため、漢文に接することが多い。史料の意味を積極的に理解しようとする意欲をもって臨んで欲しい。

テキスト

なし

参考図書など

講義中別途指示。

日本語論

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

小林　あづみ

概　　要　日本語の言葉としての性質を知ることは、今後日本語を効果的に使用するためにも、外国語を学ぶ上でも重要である。また、言語は文化を背景にしているものであるため、日本語を客観的に学ぶことは、日本文化への理解を深めることでもある。漢字をはじめとした外国語を取り入れながら発達した日本語の表記や語彙などにあらわれた性格を考察したい。

達成目標　日本語の性質を知り、日常生活における日本語の使い方をより向上させることを目標とする。

教 授 計 画

第１週	講義の内容・進め方の確認など
第２週	世界の言語と日本語（１）
第３週	世界の言語と日本語（２）
第４週	日本語の複合性
第５週	日本語の孤立性
第６週	日本語の発音
第７週	日本語の表記
第８週	文字の使い分け
第９週	感じの性格・用法
第10週	日本語の語彙
第11週	日本語の文法
第12週	敬語表現（１）
第13週	敬語表現（２）
第14週	敬語表現（３）
第15週	まとめ

評価方法

毎回行う設問への解答・講義内での発言・試験結果

授業方法・受講上の注意

単なる講義ではなく、毎回何らかの設問に回答することを求める。従って身近な言葉にもその仕組みや成立について普段から考える態度を養って欲しい。受講生の希望によっては、講義内容を一部変更する可能性がある

テキスト

なし

参考図書など

講義中別途指示する。

法学

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

山本　和子

概　　要　法とは何か。社会における様々な問題を解決するための判断基準・ツールであることを理解し、その判断のための法常識（リーガルマインド）を養う。最も身近かな法である家族法、契約法さらには刑法の実例をもとに、どのように判断されているのかを説明する。

達成目標　具体的な紛争について考えることによって、なぜ法率がそのように整備されているかの理由を理解しできるようにする。中には改正すべきと思われる法律もあることを知り、法律は万能ではないこと、自分の意識を確認することを目標とする。

教 授 計 画

第１週	自分は何者なのかについて、法律はどのように規定しているのか？あなたは何国人と言えるか？
第２週	国籍についての規定。国籍のない人也外国人は日本に在住できるのか？。
第３週	出生と死亡に関する問題。人工授精、代理母、安楽死、尊厳死、臓器移植などどこまで認められる？
第４週	家族に関する法律の改正案について。女子の婚姻適齢引き上げ　夫婦別姓、再婚禁止期間の短縮、非嫡出子の相続分などはどう変わる？
第５週	無能力者制度について。未成年者や認知症の高齢者は誰が守る？
第６週	契約の基礎知識　⑴　意思表示について。思い間違いは誰の責任に？
第７週	契約の基礎知識　⑵　売買契約の売主と買主の権利義務。傷のあるものを買った時は？
第８週	契約の基礎知識　⑷　不法行為とは何か。　原因から結果が生じたら責任がある？
第９週	契約の基礎知識　⑸　証明責任の転換　　欠陥品であることを証明するのか？
第10週	刑法の基礎　　⑴　刑罰は誰が下すのか。その種類と方法。
第11週	刑法の基礎　　⑵　刑法二規定する犯罪について。知らなかったら罪にならないか？
第12週	刑法の基礎　　⑶　故意と過失、未遂と既遂はどう違う？
第13週	刑法の基礎　　⑷　量刑はどう決める？　自首とか情状酌量とは何？
第14週	刑法の基礎　　⑸　再審制度について。冤罪とは？
第15週	刑法の基礎　　⑹　裁判員裁判の対象となるのはどのような事件か？

評価方法

毎回講義の最後に提出されるその講義のポイントについての質問に対しコメントを求める。評価はこれらのコメントおよび試験期間のテストあるいはレポートの総合評価とする。

授業方法・受講上の注意

コメントは欠席した場合、次回に提出すること。規定枚数提出されないと評価の対象としないことがあるので注意。コメントの内容は自分自身の意見を書くこと。

テキスト

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考図書など

講義中に随時紹介する。

日本国憲法

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

山本　和子

概　　要　日本の統治機構の基礎を学び、立法・司法・行政が相互に抑制しあっていることを把握できるようにする。その中で２００９年度より開始された裁判員制度の目的、内容、問題点を論じる。後半は人権について学び、現在の日本で人権問題として大きく取り上げられる事柄を中心に、その原因および考え方について考察する。

達成目標　憲法の基本的枠組みを理解した上で、憲法上の論点とされている事柄について自分なりの意見が言えるようにする。憲法問題は特殊な問題ではなく日本人が常識的に判断できるものであることを理解できるようにする。

教 授 計 画

第１週	日本国憲法の成り立ち。　日本人とは。
第２週	天皇制について。
第３週	日本の統治機構　⑴　国会および二議院制
第４週	日本の統治機構　⑵　内閣の組織　内閣総理大臣の権限
第５週	日本の統治機構　⑶　司法の仕組みおよび　三権の相互抑制
第６週	憲法第９条の問題点
第７週	裁判員裁判とは。その意義と成果　裁判員制度のDVD鑑賞
第８週	人権とは何か。その歴史的意義。
第９週	基本的人権　⑴　法の下の平等　ー　外国人および子供の権利について。
第10週	基本的人権　⑵　信教の自由
第11週	基本的人権　⑶　表現の自由
第12週	基本的人権　⑷　勤労の権利および義務
第13週	基本的人権　⑸　財産権
第14週	基本的人権　⑹　法定手続の保障
第15週	地方自治における住民投票権について。

評価方法

毎回講義の最後に提出されるその講義のポイントについての質問に対しコメントを求める。評価はこれらのコメントおよび試験期間のテストあるいはレポートの総合評価とする。

授業方法・受講上の注意

コメントは欠席した場合、次回に提出すること。規定枚数提出されないと評価の対象としないことがあるので注意。コメントの内容は自分自身の意見を書くこと。

テキスト

日本国憲法資料集第４版　樋口陽一・大須賀明編　三省堂

参考図書など

講義中随時紹介する。

経済学

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 講義　選択

関川　靖

概　　要　市場には3つの経済主体が存在し、これら各々が経済行動を行うことで市場経済、ないしは日本経済が形成されている。この講義では、ミクロ経済部門として経済主体の行動がどのように決定されているのかを考え、マクロ経済部門では日本経済の動きを捉え方や、日本経済全体を調整する政策などを考察するとともに、対外取引をも考察し為替レートの決定も開放マクロ経済部門として考察する。

達成目標　経済成長はどのようにして生じたり、なぜ金融政策で利子率をわずかに変化させるかなど、新聞やマスメディアなどの報道を理解することが簡単なようで理解している人は少ない。本講義では、これら報道を正しく理解し、正しい判断を下せるように経済学全般の基礎知識を習得することを目標とする。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス 半年間の講義計画
第２週	消費経済問題と経済学の考え方 消費者サイドの経済学とは？
第３週	消費者重視の経済構造の構築 消費者主権が達成できる経済
第４週	市場取引 需要と供給
第５週	市場均衡 生産量と価格の決定
第６週	家計の行動 貯蓄･消費の決定
第７週	企業行動（１） 生産量の決定
第８週	企業行動（２） 投資の決定
第９週	市場機能 需要曲線・供給曲線のシフト、余剰分析
第10週	市場の限界（１） 寡占･独占市場
第11週	市場の限界（２） 市場の失敗、俯瞰情報下における意思決定
第12週	マクロ経済学の捉え方 GDPとは、景気循環
第13週	GDPの決定 経済成長、有効需要理論
第14週	金融政策と財政政策 銀行制度と信用創造、調整役としての政府
第15週	国際マクロ経済 貿易・為替レートの決定

評価方法

定期試験80%、出席やレポートなどの平常点20%

授業方法・受講上の注意

テキストを用いた講義を行うが、要点整理のために必要に応じてプリントも配布する。

テキスト

朝岡・関川編著　「消費者サイドの経済学」

参考図書など

講義中に随時紹介する

社会学

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

井上　治子

概　　要　人間とは何か、人間の社会とは何か。これらの問に答えようとするのは、なにも社会学だけではありませんが、しかし社会学理論には、人間が集まった状態についての独特な視点があります。その面白さを、みなさんと分かち合いたいと思います。

達成目標　様々な社会現象について、普段とは異なる視点；社会学理論の視点から見ることができるようになることを目指します。また、折に触れて時事問題を事例として取り上げ、それを通じて、歴史的背景や地理的な知識を補うことも、併せて目指します。

教 授 計 画

第１週	講義のオリエンテーション：「社会についての科学？」　社会科学についての概説。
第２週	社会と社会学について１
第３週	社会と社会学について２
第４週	行為論について１
第５週	行為論について２
第６週	相互作用論について１
第７週	相互作用論について２
第８週	集団論について１
第９週	集団論について２
第10週	人間の「遊び」について、遊びと教育１
第11週	人間の「遊び」について、遊びと教育２
第12週	社会学の先駆者、モンテスキューについて
第13週	社会生理学と実証主義、サン＝シモンについて
第14週	社会学の祖、コントについて
第15週	全体のまとめ

評価方法

基本的には、定期試験（テキスト・ノート持ち込み可）の成績により評価します。　講義中に、受講生諸君に質問することがあります。良い解答には「ポイント」がつき、定期試験の点数に加算します。

授業方法・受講上の注意

講義形式です。高校までの社会系科目とは異なり、「暗記物」ではありません。考えて理解しようと努めていただく必要があります。

テキスト

『社会学がわかる辞典』、森下伸也　著、日本実業出版社　刊

参考図書など

高校までに自分で使用してきた社会系科目の教科書・用語集・資料集など。

基礎数学

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 講義　選択

長谷川 聡

概　　要　基礎的な数学の理解を図るとともに、数学の文化的側面を捉えなおす。有史以来の数学の発展から話をはじめ、現代の社会生活や科学技術に大きな影響を与える数学について講義する。情報科学や栄養学への応用にも触れる。講義では、毎回、様々な話題を提供するが、半年を通して受講するうちに相互に関連のある内容となる。色々なことに疑問を持って楽しみながら考えることが必要である。

達成目標　数学はどのような学問であるかを知り、各自の専門分野や実生活との関連を実感することによって、多様な数理科学についての理解を深める。高校までの数学の知識を必ずしも前提としない。数学をとおして考える習慣および論理的な思考力を身につけるとともに、世界観や文化のあり方にまで思考をめぐらせ、各人の学習姿勢や人生観および現実世界とのかかわりを形成していく上での端緒を築く。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション数学とは何か。「数学は、数の学問ではありません」
第２週	数のはじまり「数はいったいどこにある？」
第３週	数学のはじまりヘレニズム時代の数学 「音楽と数学は同じ？」
第４週	幾何学ピタゴラス学派の数学 「男性数・女性数・結婚数・友愛数なんてのもある」
第５週	幾何学と代数学図形数の不思議 「１から1000 まであっという間に足し算する」
第６週	現代に生きる幾何学黄金比と美意識の系譜 「神が与えた美しいプロポーション」
第７週	数学の発展無理数の発見 「決して他人に話してはいけません」
第８週	数学の方法ユークリッドの原論と数学の思想 「幾何学に王道なし」
第９週	ユークリッド幾何学面積から体積へ 「食べる前にプリンやドーナツのボリュームを知るには」
第10週	解析学面積や体積を求める方法 「微分・積分は役に立つ」
第11週	自然界の形の不思議生き物はみな数学者？
第12週	コンピュータを使った数学デジタル幾何学とＣＧ（コンピュータグラフィクス）
第13週	栄養指導にも応用１？コンピュータで画像解析 「食事の画像から自動的に栄養分析ができるか？」
第14週	位相幾何学（トポロジー）コンピュータ技術にも応用される一筆書きの秘密 「ドーナツとマグカップは同じ形？」
第15週	数学基礎論数学とは何か（再び）。「うそつきは誰か」「必ずＹＥＳと言わせるプロポーズ」

評価方法

学期末に筆記試験を行う。試験にはノートや参考書を持ち込み可能なので、事前に準備すれば何かを暗記する必要はない。しかし、講義内容をよく理解し自分でよく考えなければ答案は書けない。講義中にレポートを受け付け、添削して返却し、受講生と議論する。レポートの内容も評価に加える。

授業方法・受講上の注意

講義形式の授業であるが、学生側からの発言を求めて議論することがある。レポートなどの形で学生からの問題提起を受け付ける。様々な問題に対して、各人が自分の力で考え、手を動かして試してみることが求められる。高校までの授業科目としての数学とは雰囲気が違うかもしれない。

テキスト

なし

参考図書など

必要に応じて紹介する

統計学

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択　　社会調査士

田近　一郎

概　　要　大規模な社会調査からビジネスにおける販売データの分析、レポート作成のための実験データの分析にいたるまでさまざまな場面で使われる統計学は合理的に意思決定をおこなうときに必要不可欠なリテラシーと言える。本講義ではこのようなときに役に立つ統計学の基礎的な概念と実際の方法を学ぶ。

達成目標　データの集まりからその性質を取り出すための最も基本的な処理方法を理解することを目標とする。データの種類から、基本統計量、記述統計・推測統計の違い、検定・推定理論とその応用などを学習する。本講義にかかわりの深い科目として情報メディア学科開講科目の「統計解析」がある。また、本講義の内容をより専門的に深めた科目としてPR学科開講科目の「量的データ解析」がある。

教 授 計 画

第１週	統計学が社会調査、ビジネスにおけるデータの分析、実験観測データの処理のどの場面で用いられているかを例をあげて概説する。
第２週	データ尺度の４水準、量的データと質的データについて例をあげて説明する。また、データの分布を要約する方法の一つとして、度数分布表、ヒストグラム、クロス集計を用いる方法を説明する。
第３週	データの分布を要約するもう一つの方法として、平均、分散、標準偏差などの代表値や散布度などを用いる方法を説明する。確率と確率変数など重要で基礎的な概念について復習する。
第４週	データの平均値と標準偏差からデータの性質を読み取ることができることを具体的な事例をいくつか取り上げて解説する。
第５週	データの分布を近似する方法としてもっとも一般的な正規分布を解説する。一般正規分布と標準正規分布との関係についても説明する。
第６週	２項分布、カイ２乗分布、ポアソン分布など正規分布以外の代表的な確率分布を取り上げその意味と特性について概説する。
第７週	正規分布による推定として最も基本的な「９５パーセント信頼区間による区間推定」の方法について例をあげて詳しく解説する。
第８週	推測統計学の基礎として、データの源である母集団とそこからサンプリングされた標本についての基本的な性質にふれ、サンプリングの方法についても概説する。
第９週	標本平均、標本分散などの標本統計量の考え方を解説する。母集団の母分散がわかっているときの母平均の正規分布による区間推定について例をあげて説明する。
第10週	母集団の母平均がわかっているときとわからないときの母分散のカイ２乗分布による区間推定について解説する。母集団の母分散がわからないときの母平均のｔ分布による区間推定について解説する。
第11週	標本から母集団の性質を見積もる方法として統計学的仮説検定を解説する。帰無仮説と対立仮説の立て方、両側検定と片側検定について例をあげて説明する。
第12週	平均値の検定としてｔ検定（独立した２群間の比較、対応のある２群間の比較）と比率に関する検定として２乗検定（独立性の検定）を解説する。
第13週	統計データを複数の群に分けた場合の群間の比較に関して、母平均の差の検定、母比率の差の検定などを解説する。また、２つの変数の間の独立性の検定、無相関の検定などにもふれる。
第14週	多変量解析の基礎である散布図から相関係数、回帰係数、単純回帰分析までを概説する。質的データの分析の一例としてクロス集計表を取り上げ、属性相関係数、オッズ比などについて説明する。
第15週	授業期間中に出したレポートの解説をおこなう。

評価方法

講義、コンピュータ演習の出席状況、講義期間中のミニレポート、期末試験の結果から総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

主に講義をおこなう。講義内容に関する理解度を確認するため、基本的なコンピュータ演習、レポートも取り入れる。

テキスト

使用しない。適宜プリント等を配布する

参考図書など

小島寛之著「完全独習　統計学入門」ダイヤモンド社　向後千春著「統計学がわかる」技術評論社
青木繁伸著「統計数字を読み解くセンス」化学同人

自然科学概論

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

佐原理・大矢信吾・本多一彦・落合洋文・長谷川聡

概　　要　古来、人間は美の根源について様々に思い巡らしてきた。美しい図柄のなかに幾何学的な秩序や数学的な法則性を見出してきたのもその表れである。本講義では自然界に存在する対称性に注目し、自然科学と芸術の係わりを論じ、また対称性を通して自然の神秘に迫る。

達成目標　対称性の問題を通して自然の秩序の精妙さや不可思議さに興味をもつようになること。

教 授 計 画

第１週	佐原　理　美術におけるシンメトリー：対称性が持つ美　人は対称に何を見いだしてきたのか。
第２週	佐原　理　美術における奢侈消費としての美　価値としての美の構造学
第３週	佐原　理　美術を通して考える価値構造　対称とは何か?
第４週	大矢信吾　微小世界の対称性１：物質の成り立ちについて、自然界のたまねぎ構造（階層構造）を解説する。また、自然界に存在する４つの力についても説明する。
第５週	大矢信吾　微小世界の対称性２：究極の根源物質とされるクォークとレプトンについて解説し、自然や宇宙の成り立ちについて考える。また、質反物質にも言及する。
第６週	大矢信吾　微小世界の対称性３：パリティの破れ、カイラル対称性の破れなど自然の根底でで起こっている、私たちの日常では意識しないが、この世界を決めている重要な出来事を解説する。
第７週	本多一彦　物質世界のシンメトリー１：物質を構成する原子や分子のようなミクロの世界を支配する波の性質について理解する。
第８週	本多一彦　物質世界のシンメトリー２：波の理論の誕生をビデオ教材を基に、歴史的な流れで捉える。
第９週	本多一彦　物質世界のシンメトリー３：分子の形に由来する電子の波についてパソコン上で再現させ、その妙を鑑賞する。
第10週	落合洋文　生命とシンメトリー１：生命の起源と対称性
第11週	落合洋文　生命とシンメトリー２：極限生命と対称性
第12週	落合洋文　生命とシンメトリー３：生理活性物質と対称性
第13週	長谷川聡　生き物とシンメトリー１：人間は左右対称か、巻き貝のらせん、キリンの模様など生き物の「かたち」の不思議を考える。
第14週	長谷川聡　生き物とシンメトリー２：生き物の「かたち」の不思議について考えることで分かる自然科学の「ものの見方」について。
第15週	長谷川聡　生き物とシンメトリー３：数理科学によって複雑な自然の「かたち」は理解できるか。「科学」とはなにか。「科学」と「非科学」の違いから考える。

評価方法

原則としてテストまたはレポートによる(担当者により異なる)。

授業方法・受講上の注意

特になし。

テキスト

使用しない。

参考図書など

講義中に適宜紹介する。

フランス語Ⅰ

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 演習　選択

山田　弘明

概　　要　フランス語初級のテキストにもとづいてフランス語文法の基礎を学びます。１２ユニットのレッスンにより動詞、名詞、代名詞、形容詞、疑問文、否定文、命令文などを順次学習していきます。練習問題を課すほか、ビデオやＣＤ教材を活用し、実際の場面のなかでフランス語を自然に習得できるようにします。フランス映画やシャンソンも鑑賞します。

達成目標　音としてのフランス語、文字としてのフランス語に慣れ、聞く、話す、読む、書く、の総合的なコミュニケーション能力を習得します。フランスの文化に触れ、フランス語圏の国へ行っても違和感のないようにします。フランス語実用検定試験５級合格の能力に達することが可能です。

教 授 計 画

第１週	はじめに。この授業の紹介と教科書の説明。フランス語のつづりと発音。
第２週	人称代名詞、動詞の活用
第３週	名詞と冠詞、名詞の性・数
第４週	所有形容詞、疑問文、否定文　　ビデオ「ユーロ」「ホテル」「緑地帯」
第５週	形容詞の位置と女性形、形容詞と名詞の複数形
第６週	近い未来・近い過去
第７週	疑問代名詞、疑問副詞　　ビデオ「カフェ」「地下鉄」「パリの美術館」
第８週	フランス映画鑑賞
第９週	疑問形容詞、命令形、非人称構文　文明講座、ビデオ「パリの中の日本」
第10週	比較級・最上級　　ビデオ「フランス料理」「スポーツ」「店」「鉄道」
第11週	補語人称代名詞、代名動詞
第12週	複合過去形
第13週	単純未来形　　ビデオ「ルーアンの街」「外国料理店」
第14週	フランス文法の総括、文芸作品とシャンソン鑑賞
第15週	フランス語検定５級のための模擬試験問題の解説

評価方法

筆記試験、出席、小テストによります。一回でも休むと分りにくくなりますので、出席を重視します。

授業方法・受講上の注意

テキストの他に、映像や音声によって学習の定着をはかります。テキストの音読、文法についての小テスト、仏作文などを課します。予習・復習が絶対条件です。とくに予習を抜きにした受講は無意味であり、「出席」とは認められません。

テキスト

Elle est gourmande！1（「新・彼女は食いしん坊！　1」）朝日出版社

参考図書など

「クラウン仏和辞典」三省堂＝必需品なので購入しておくこと

フランス語II

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 演習　選択

山田　弘明

概　　要　フランス語Iを履修した学生を対象とします。フランスの食文化を題材にした中級フランス語のテキストを使用します。１０ユニットのレッスンにより、文法、練習問題、聞き取りなどを通してフランス語の知識をさらに高めます。ビデオ映像などの視聴覚教材を活用し、文学作品、シャンソン、映画の一場面などを鑑賞し、仏作文にも挑戦します。

達成目標　総合的なコミュニケーション能力をさらに高度なものとし、それを通してフランス語のセンスを身につけます。フランス人のものの考え方、地方の文化や風土を知ることも目標の一つです。フランス語実用検定試験４級合格の能力に達することが可能です。

教 授 計 画

第１週	はじめに。この授業と教科書の紹介。つづり字。「文明講座」（フランスの地方料理）。
第２週	ビデオ「アルザス地方」　複合過去、代名動詞、代名動詞の複合過去、過去分詞の一致。
第３週	半過去と大過去、複合過去と半過去。
第４週	文学作品の鑑賞と仏作文１、ビデオ・文明講座「料理を作ろう」１
第５週	ビデオ「ブルゴーニュ地方」　関係代名詞、命令形と補語人称代名詞、序数。
第６週	現在分詞、ジェロンディフ、疑問代名詞。
第７週	ビデオ「ローヌ・アルプ地方」　受動態、最上級、副詞、強調構文、中性代名詞。年号。
第８週	フランス映画鑑賞
第９週	ビデオ「プロヴァンス地方」　条件法現在・条件法過去。
第10週	接続法現在・接続法過去
第11週	文学作品の鑑賞と仏作文２、ビデオ・文明講座「料理を作ろう」２
第12週	ビデオ「ブルターニュ地方」　間接話法、時制の一致。
第13週	前置詞と接続詞。
第14週	フランス文法の総括、文芸作品とシャンソン鑑賞。
第15週	フランス語検定４級のための模擬試験問題の解説。

評価方法

出席、小テスト、レポートによります。

授業方法・受講上の注意

新しい外国語の勉強に挑戦する！という態度が必要で、予習・復習は不可欠です。テキストの他に、映像や音声によって学習の定着をはかります。授業の進度に応じて、ロール・プレイによる実習、仏文の訳、仏作文などを課します。自分で実際にやってみることが大切です。

テキスト

Elle est gourmande！2（「新・彼女は食いしん坊！２ ）朝日出版社

参考図書など

「クラウン仏和辞典」三省堂＝必需品なので購入しておくこと

中国語I

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 演習　選択

鄭　躍慶

概　　要　中国語の入門として、その発音を重点的に指導する。自分や家族のことなどを中国語で紹介できるよう、中国語コミュニケーションの基礎的能力を演習式で養成する。将来、中国への留学や旅行に際し、あるいは職場で必要最小限の会話ができるようになる。

達成目標　中国語の発音、中国語に関する基礎知識を身につけることができるだけでなく、簡単な挨拶と簡単な中国語の会話や簡単な中国語の文章もできるようになる。メディア教材なので、ゲーム感覚で中国語を楽しく学習することができる。

教 授 計 画

第１週	発音の基礎（単母音・複母音）
第２週	発音の基礎（前鼻母音・後鼻母音）
第３週	発音の基礎(子音、声調)
第４週	発音の注意
第５週	声調の変調
第６週	音節構造
第７週	挨拶表現(上)
第８週	挨拶表現(下)
第９週	自己紹介(上)
第10週	自己紹介(下)
第11週	家庭紹介(上)
第12週	家庭紹介(下)
第13週	大学の紹介(上)
第14週	大学の紹介(下)
第15週	復習

評価方法

出席状況、授業の態度、期末試験の結果に基づいて総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

授業の出席状況を非常に重視する。また、授業を受ける態度（会話の練習、作文の練習、質問の態度など）も期末テスト点数評価の参考になる。積極的に先生と一体となって実のある楽しい授業を期待したい。

テキスト

「中国語新幹線・初級表現(上)」　馮富栄著　北京言語大学出版社出版

参考図書など

授業の中で紹介します。

中国語II

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 演習　選択

鄭　躍慶

概　　要　この講義は、中国語Ｉを習得した学生を対象としている。ここでは、簡単な作文や状況会話や聞き取りの練習を重点としたい。前期を含め、一年間の勉強を通じて、約70の文型と600の単語を身につけることができる。中国語コミュニケーションの基礎的能力を養成する。　メディア教材なので、ゲーム感覚で中国語を楽しく学習することができる。

達成目標　前期を含め、一年間の勉強を通じて、約70の文型と600の単語を身につけることができる。中国語能力検定試験4級のレベルに対応することが可能である。また中国語の朗読能力や語学力が確実に向上する。

教 授 計 画

第１週	自分の一日について(上)
第２週	自分の一日について(下)
第３週	自分の部屋について(上)
第４週	自分の部屋について(下)
第５週	友達の紹介(上)
第６週	友達の紹介(下)
第７週	私の誕生日(上)
第８週	私の誕生日(下)
第９週	中国語の学習(上)
第10週	中国語の学習(下)
第11週	春休みについて(上)
第12週	春休みについて(下)
第13週	まとめ
第14週	自分の一日について(下)
第15週	自分の部屋について(上)

評価方法

出席状況、授業の態度、期末試験の結果に基づいて総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

基本的に中国語Ｉと同様。会話の練習や作文の練習や聞き取りの練習などが重点である。

テキスト

「中国語新幹線・初級表現下」　　馮富栄著　　北京語言大学出版社出版

参考図書など

授業の中で紹介します。

スポーツ科学

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 講義　選択

関　豪

概　　要　スポーツ科学とはスポーツの関わる身体運動現象を人文社会学あるいは自然科学の研究方法論から探究するものである。スポーツと人間社会との相互関係のあり方について理解を深めるために、スポーツの歴史、発展過程を学び、さらには身体運動の基本的なメカニズムなどを総合的に学ぶ。

達成目標　生涯健康で生活を営むために、スポーツを用いることが非常に多くなり、生涯スポーツという言葉もよく耳にする。皆が楽しく、安全にスポーツを行うためにも、身体運動のメカニズムなどを理解し、自分自身で運動を実践していくこと目標とする。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス（講義内容、講義の進め方、受講上の注意、成績評価） スポーツ科学とは
第２週	スポーツの歴史および発展について
第３週	社会におけるスポーツ科学の必要性
第４週	筋収縮の様式について
第５週	身体運動と力学
第６週	身体の基本的動作　　立つ
第７週	身体の基本的動作　　身体の重心を求めてみよう！！
第８週	身体の基本的動作　　歩く
第９週	身体の基本的動作　　走る
第10週	身体の基本的動作　　跳ぶ
第11週	身体の発展的動作　　投げる１
第12週	身体の発展的動作　　投げる２
第13週	身体の発展的動作　　打つ１
第14週	身体の発展的動作　　打つ２
第15週	総括　簡単なスポーツ運動を撮影してみよう！！

評価方法

筆記試験の結果、講義で配布する用紙の記載内容、課題提出を総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

プロジェクターを使用し板書の代わりとするので、オリジナルのノートを作成すること。ダイアローグ形態で講義を進めるため、積極的な参加を希望する。

テキスト

適宜プリントを配布

参考図書など

スポーツバイオメカニクス入門（杏林書院）

スポーツI

基礎　ＰＲ学科　　前期　１単位 実技　選択

関　豪

概　　要　現代社会の風潮は、健康のためにスポーツが用いられるようになり、生涯スポーツという言葉をよく耳にする。生涯スポーツとして若年層、高齢者の人々が気軽に取り組むことができるニュースポーツが存在する。スポーツＩでは、ニュースポーツの中からソフトバレーボール、ショートテニス、キンボールの３種目を取り上げ実施する。

達成目標　ニュースポーツを理解するために、取り上げた３種目の特性や技術を把握し、パフォーマンスの向上や体力維持増進に役立てることを目的とする。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス（講義内容、講義の進め方、受講上の注意、成績評価）
第２週	ソフトバレーボール　種目の特性、基礎技術の習得（サーブ、レシーブなど）およびルール習得
第３週	ソフトバレーボール　基礎技術の習得（サーブ、レシーブなど）およびゲーム
第４週	ソフトバレーボール　ゲーム
第５週	ソフトバレーボール　ゲーム
第６週	ショートテニス　種目の特性、基礎技術の習得（サーブ、ストロークなど）およびルール習得
第７週	ショートテニス　基礎技術の習得（サーブ、ストロークなど）およびシングルス（リーグ戦）
第８週	ショートテニス　シングルス（リーグ戦）
第９週	ショートテニス　シングルス（リーグ戦）
第10週	ショートテニス　シングルス（リーグ戦）
第11週	ショートテニス　ダブルス（リーグ戦）
第12週	ショートテニス　ダブルス（リーグ戦）
第13週	ショートテニス　ダブルス（リーグ戦）
第14週	キンボール　種目の特性、コンペティションゲームのルール習得
第15週	キンボール　コンペティションゲーム　総括

評価方法

出席状況と受講態度を中心に、グループワーク、種目の特性や技術の理解度、パフォーマンスの向上など総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

運動に適した服装、靴を必ず準備し、各自が積極的に参加すること。

テキスト

適宜プリントを配布。

参考図書など

「ニュースポーツ百科」（大修館書店）

スポーツII

基礎　ＰＲ学科　　後期　１単位 実技　選択

関　豪

概　　要　現代社会は、健康の維持・増進のため生涯スポーツとしてスポーツに取り組む風潮である。各自の体力および基礎能力を知り、生涯スポーツに取り組むことが必要である。そこで、スポーツIIでは、数あるスポーツ種目の中から運動強度的にも高く、そして比較的誰もが簡単に取り組むことのできるバドミントンを種目として取り上げ実施する。

達成目標　運動強度としては高いレベルにあるバドミントンを実施することにより、各自の体力および基礎能力を判断する。さらに種目の特性や技術を理解し、パフォーマンスの向上に努めることを目的とする。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス（講義内容、講義の進め方、受講上の注意、成績評価）
第２週	バドミントン　種目の特性、基礎技術の習得（ラケットの握り方・ストローク）
第３週	バドミントン　基礎技術の習得（クリア・ドロップ・ドライブなど）
第４週	バドミントン　基礎技術の習得（スマッシュ・ヘアピンなど）
第５週	バドミントン　シングルスルール習得およびリーグ戦
第６週	バドミントン　シングルス　リーグ戦
第７週	バドミントン　シングルス　リーグ戦
第８週	バドミントン　シングルス　リーグ戦
第９週	バドミントン　ダブルスルール習得およびリーグ戦
第10週	バドミントン　ダブルス　リーグ戦
第11週	バドミントン　ダブルス　リーグ戦
第12週	バドミントン　ダブルス　リーグ戦
第13週	バドミントン　ダブルス　リーグ戦
第14週	バドミントン　シングルス・ダブルス　グループ対抗戦
第15週	バドミントン　シングルス・ダブルス　グループ対抗戦　総括

評価方法

出席状況と受講態度を中心に、グループワーク、種目の特性・技術の理解度、パフォーマンスの向上など総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

各自が積極的に参加すること。
運動に適した服装、靴を必ず準備すること。

テキスト

適宜プリントを配布。

参考図書など

体育実技総合版（大原書店）

生涯スポーツI

基礎　ＰＲ学科　　前期　１単位 実技　選択

関　豪

概　　要　自然の中でエコ・スポーツ（ecological sports）といわれる、他との競争を伴わないアウトドアスポーツ、トレッキング、サイクリング、ラフティング、などを体験することによって、日常では経験できない大自然におけるスポーツの特性を理解し、その実践力を高める。

達成目標　大自然の中で、競技スポーツでないエコ・スポーツの意味を理解し、その実践力を高めるとともに、集団生活、団体行動のルールやマナーを身につける。また、自然や環境問題についても真面目に考える態度を養う。

教 授 計 画

第１週	事前講義 ガイダンス：授業のねらい、目的、実践方法、評価について
第２週	事前講義 野外活動、エコ・スポーツ、生涯スポーツについて
第３週	事前講義 スポーツと環境問題について　アウトドア・スポーツの方法とマナーについて
第４週	実習 １日目　　実習地にバスで移動
第５週	実習 １日目　　現地散策、サイクリング、野外レクリエーション等
第６週	実習 ２日目　　ラフティング
第７週	実習 ２日目　　ラフティング
第８週	実習 ２日目　　ラフティング
第９週	実習 ２日目　　ラフティング
第10週	実習 ２日目　　ラフティング
第11週	実習 ２日目　　ラフティング
第12週	実習 ３日目　　トレッキング
第13週	実習 ３日目　　トレッキング
第14週	実習 ３日目　　トレッキング　　バスで移動
第15週	総括、反省、実習レポート

評価方法

1　事前講義の出席状況
2　実習での活動態度、意欲
3　以上に加えて、どれだけ楽しめ、エコ・スポーツや自然を理解できたかの総合的評価とする

授業方法・受講上の注意

1　事前講義（実習説明会等）から必ず出席すること
2　実習地では時間厳守
3　集団行動のルールを守ること

テキスト

使用しない。

参考図書など

事前講義の中で適宜紹介する。

生涯スポーツII

基礎　ＰＲ学科　　後期　１単位 実技　選択

関　豪

概　　要　ウインタースポーツの代表として、また生涯スポーツとして幅広い年齢層から親しまれているスキー・スノーボードを体験し、冬のアウトドアスポーツについて理解を深め、実践力を高める。実習を通して集団生活、団体行動の要領やルール、マナーを身につける。

達成目標　スキー、スノーボードの基礎技術、応用技術をそれぞれの技術レベルに応じて学習し体得する。また、スキーやボードがなぜ曲がるのかといった、板の構造やスキルのメカニズムについても科学的に理解を深める。集団生活、団体行動の要領を身につける。

教 授 計 画

第１週	実習前の講義 ガイダンス：授業のねらい、目標、実習について、評価の仕方
第２週	実習前の講義 冬のアウトドアスポーツについて　　スキー、スノーボードの楽しみ方
第３週	実習前の講義 スキー、スノーボードの発展史、技術史、用具史
第４週	実習（移動）　ビデオによるスキー・スノーボードの基礎知識の習得（午前） １日目　　グルーピング　　（午後）
第５週	実習 １日目　　基礎技術の学習　　（午後）
第６週	実習 １日目　　個別レッスン　　（ナイター）
第７週	実習 ２日目　　技術レベルに応じたレッスン　　（午前）
第８週	実習 ２日目　　“　　（午前）
第９週	実習 ２日目　　“　　（午後）
第10週	実習 ２日目　　“　　（午後）
第11週	実習 ２日目　　個別レッスン　　（ナイター）
第12週	実習 ３日目　　自由滑走　　（午前）
第13週	実習 ３日目　　自由滑走　　（午前）
第14週	移動　　（午後） ビデオによる滑走技術の学習　　（午後）
第15週	実習後の講義 総括と反省

評価方法

1　実習前・後の講義の出席状況
2　実習での参加態度、意欲、技術の習熟度
3　以上の観点から総合的に評価する

授業方法・受講上の注意

1　実習前・後の講義には必ず出席すること
2　実習中は集団生活、団体行動のルール、マナーを遵守すること

テキスト

使用しない。

参考図書など

適宜紹介する。

異文化コミュニケーション

基礎　ＰＲ学科　　前期　２単位 講義　選択

佐久間　重

概　　要　文化そのものがコミュニケーションの機能を持っていることに留意し、異文化間でコミュニケーションを円滑に行うためにはどの様な点に注意が必要なのかを学習することにする。異文化コミュニケーションを理解するに当たり、世界の文化を大別する基準としてどの様なものがあるかを学習する予定である。また、ビデオを利用し、異文化コミュニケーション上の問題について学習する。

達成目標　異文化間でコミュニケーションを円滑に行えるようにすることを目標とする。そのために、相手の意志を理解できるようにすることを最低限の目標とする。さらに、異文化コミュニケーションを理解することにより、同文化間でのコミュニケーションの一層の円滑化を目標とする。

教 授 計 画

第１週	コミュニケーションの意味
第２週	コミュニケーションの行われる分野
第３週	異文化コミュニケーションを理解するための諸概念（1）
第４週	異文化コミュニケーションを理解するための諸概念（2）
第５週	ハイ・コンテクストについて
第６週	ロー・コンテクストについて
第７週	日本及びラテン系とゲルマン系との間にあるコンテクストの違い
第８週	空間が果たすコミュニケーションの機能
第９週	単時系的時間
第10週	複時系的時間
第11週	単時系的民族の特徴と複時系的民族の特徴の対比
第12週	コミュニケーションにおけるテンポやリズムの重要性
第13週	文化による予定の捉え方の違い
第14週	情報の流れ易い社会と流れ難い社会
第15週	文化上のインターフェースの意味

評価方法

講義の出席状況
授業中の小論文
試験結果

授業方法・受講上の注意

出席重視
講義そのものもコニュニケーションであることに留意した抗議への参加
ビデオ教材の活用

テキスト

なし

参考図書など

古田暁監修『異文化コミュニケーション』有斐閣選書池田理知子・Ｅ．Ｍ．クレーマー著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ

海外文化事情

基礎　ＰＲ学科　　後期　２単位 講義　選択

佐久間　重

概　　要　文化の定義の一つとして、数世代に渡って形成された思考や行動様式というものがある。思考や行動様式に大きな影響を与えている言語や宗教の理解が不可欠なので、言語や宗教の面で世界の文化を概観する。海外の文化を考える上でも日本文化の理解が必要であるので、日本文化の特徴を学んで行く。

達成目標　文化の持つ統合化の意義を理解し、自分の文化ばかりでなく他の文化に対する複眼的な視点を獲得できるようにする。さらに、異文化に対する偏見を排除し、柔軟な対応が出来るようにする。

教 授 計 画

第１週	世界の民族について
第２週	世界の文化圏の分類
第３週	仏教の特質
第４週	キリスト教の特質
第５週	イスラム教の特質
第６週	ヨーロッパ文化の源流
第７週	ヨーロッパのキリスト教化について
第８週	ヨーロッパの近代国家の成立
第９週	イギリス文化の源流
第10週	アメリカ文化の源流
第11週	文化の継承
第12週	ヨーロッパ音楽の源流
第13週	ヨーロッパ音楽の発展
第14週	日本文化の特徴
第15週	ヨーロッパの個人主義

評価方法

講義の出席状況
課題の提出状況
試験結果

授業方法・受講上の注意

出席重視。単に講義を聴いているだけでなく、積極的に質疑応答して講義に参加すること

テキスト

なし

参考図書など

なし

ＰＲ学入門

専門　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位 講義　必修

栗林芳彦、落合洋文、宮地忍、佐久間重、江草普二、殿村美樹

概　　要　ＰＲとはなにか、ＰＲをいかにして学ぶか、そしてＰＲの実践の場であるマスメディアとはどんなものか、ＰＲ学科担当の教員がオムニバス形式で論じる。さらに、学生生活を有意義に過ごすための示唆を与える。

達成目標　・ＰＲ業界やマスコミ業界に対しておおまかなイメージをつかむ。
・４年間、いかにしてＰＲを学ぶか、自分なりの方針を定める。

教 授 計 画

第１週	（栗林芳彦）大学でＰＲを如何に学ぶか。そして社会を見る目、自分自身を見る目を如何に養うか、一緒に考えてみたい。
第２週	（栗林芳彦）大学でＰＲを如何に学ぶか。そして社会を見る目、自分自身を見る目を如何に養うか、一緒に考えてみたい。
第３週	（栗林芳彦）大学でＰＲを如何に学ぶか。そして社会を見る目、自分自身を見る目を如何に養うか、一緒に考えてみたい。
第４週	（落合洋文）メッセージの価値とＰＲ効果の測定（１）
第５週	（落合洋文）メッセージの価値とＰＲ効果の測定（２）
第６週	（落合洋文）メッセージの価値とＰＲ効果の測定（３）
第７週	（宮地忍）パブリリック・リレーションズの媒介者としてのマスコミは、情報をどのように収集して伝達しているのか。新聞、テレビ、通信社、それぞれの違い、ネット情報との関係を概観する。
第８週	（宮地忍）パブリリック・リレーションズの媒介者としてのマスコミは、情報をどのように収集して伝達しているのか。新聞、テレビ、通信社、それぞれの違い、ネット情報との関係を概観する。
第９週	（佐久間重）メッセージの様々な形態について。言語に基づいたコミュニケーション上で生じる様々な問題について。言語以外のコミュニケーションの手段について。
第10週	（佐久間重）メッセージの様々な形態について。言語に基づいたコミュニケーション上で生じる様々な問題について。言語以外のコミュニケーションの手段について。
第11週	（江草普ニ）【自己ブランド化計画】人間誰しも個性を持っている。個性は才能であり天賦のものである。ちゃんと磨けば一流ブランドになることを理解させたい。
第12週	（江草普ニ）【自己ブランド化計画】人間誰しも個性を持っている。個性は才能であり天賦のものである。ちゃんと磨けば一流ブランドになることを理解させたい。
第13週	（江草普ニ）【自己ブランド化計画】人間誰しも個性を持っている。個性は才能であり天賦のものである。ちゃんと磨けば一流ブランドになることを理解させたい。
第14週	（殿村美樹）【ＰＲの意義】ＰＲの意義を社会的な側面から解説。なぜ、マスコミとの対話が必要なのかを具体的な事例をあげながら講義する。
第15週	（殿村美樹）【ＰＲの基礎知識】基本的なＰＲのノウハウについて、ケーススタディごとに解説。

評価方法

出席と課題の提出状況で総合的に評価します。

授業方法・受講上の注意

とにかく出席すること。
なお、講義の内容や講師の都合などでスケジュールはかなりの変動があることをあらかじめ了解されたい。

テキスト

適宜、本学のワークブックを使用する。

参考図書など

特になし

文章作成法

専門　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位　講義　必修

落合　洋文

概　　要　簡潔な説明文の書き方に習熟するとともに、その応用として新聞や雑誌の記事、評論等の構成や書き方について学ぶ。また文章デッサンを通して、言葉による表現力を養う。

達成目標　第一に、わかりやすく簡潔な文章が書けるようになること。また次の段階として、読み手をひきつけ、面白いと思わせる文章の書き方を理解し、ある程度実践できるようになること。

教 授 計 画

第１週	説明文の基本（１）；わかりやすい文章とはどのようなものかを理解する。
第２週	説明文の基本（２）；わかりやすい文章とはどのようなものかを理解する。
第３週	説明文の基本（３）；わかりやすい文章とはどのようなものかを理解する。
第４週	説明文の基本（４）；わかりやすい文章とはどのようなものかを理解する。
第５週	説明文の基本（５）；わかりやすい文章とはどのようなものかを理解する。
第６週	新聞・雑誌の記事に学ぶ（１）
第７週	新聞・雑誌の記事に学ぶ（２）
第８週	新聞・雑誌の記事に学ぶ（３）
第９週	新聞・雑誌の記事に学ぶ（４）
第10週	新聞・雑誌の記事に学ぶ（５）
第11週	動きや形を表現する（文章デッサンその１）
第12週	動きや形を表現する（文章デッサンその２）
第13週	動きや形を表現する（文章デッサンその３）
第14週	動きや形を表現する（文章デッサンその４）
第15週	動きや形を表現する（文章デッサンその５）

評価方法

毎回提出する課題を評価する。試験は行わない。

授業方法・受講上の注意

毎回課題を課し、提出された課題を添削して返却する。休まず授業に出席し、確実に課題を提出すること。

テキスト

落合洋文著『サイエンス・ライティング入門』（ナカニシヤ出版2007）
ISBN 978-4-7795-0139-5

参考図書など

適宜紹介する。

情報文化論

専門　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位 講義　必修

落合　洋文

概　　要　人間とコンピュータのちがいを考えることから、情報処理技術の背後にある哲学的、思想的前提を明らかにするとともに、人間や文化についての理解を深める。また情報の意味や価値がどのようにして発生するかを理解し、情報の価値を評価する方法を検討する。さらにメディアの本質を理解し、さまざまなメディアの特性を分析する。

達成目標　① 人工知能開発の歴史的、哲学的背景を具体的な問題に即して理解すること。
② 情報の価値と適応行動の関係を理解すること。
③ マクルーハン『メディア論』の代表的な考え方を理解すること。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション：情報文化とは何か
第２週	人間はコンピュータとどこがちがうか（その１）：人工知能が前提としていること
第３週	人間はコンピュータとどこがちがうか（その２）：人間は状況に対処する
第４週	人間はコンピュータとどこがちがうか（その３）：フレーム問題について
第５週	人間はコンピュータとどこがちがうか（その４）：ペテロとパウロの杯をめぐって
第６週	人間はコンピュータとどこがちがうか（その５）：身体という装置の役割について
第７週	人間はコンピュータとどこがちがうか（その６）：目的や関心が情報に価値を与える
第８週	情報の意味と価値（その１）：情報の価値と適応行動
第９週	情報の意味と価値（その２）：情報の価値と文化
第10週	情報の意味と価値（その３）：情報とメディア
第11週	メディア論（その１）：そもそもメディアとは何か
第12週	メディア論（その２）：ナルキッソス的陶酔
第13週	メディア論（その３）：メディアはメッセージ
第14週	メディア論（その４）：アルファベットのメッセージ
第15週	メディア論（その５）：熱いメディアと冷たいメディア

評価方法

試験の成績による。

授業方法・受講上の注意

授業は講義形式で行う。

テキスト

使用しない。

参考図書など

適宜紹介する。

社会調査入門

専門　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位　講義　選択　　社会調査士

井上　治子

概　　要　社会調査は、社会学などの学問において使用されるだけでなく、官公庁やマスメディア、一般企業におけるマーケティング、労務管理など、幅広い領域で利用されている。この講義では、社会調査が利用されている領域を紹介し、その意義を解説するとともに、適切な調査の実施・結果の利用のために必要な基本的な知識を習得させることを目指す。

達成目標　１　社会調査の種類を知り、各々の調査の特徴を理解する。　２　社会調査の歴史と目的を理解する。
３　調査方法と調査倫理を理解する。　４　データ収集と分析の基礎的手法を習得する。

教 授 計 画

第１週	社会調査とは何か：官公庁統計・新聞・テレビ・インターネットサイトなど
第２週	適切な社会調査とはどのような調査か：現状で流布している社会調査に問題が見られる例と問題点の理解
第３週	適切な社会調査を行うための条件：仮説を立てることの意味と反証可能性について
第４週	社会調査の種類と調査手順の概要：量的調査の場合、質的調査の場合
第５週	情報収集の方法：図書館の利用、インターネットを用いた情報収集の注意点
第６週	収集した情報の利用：情報の精度の判断、利用目的による情報の適否、引用のマナーなど
第７週	量的調査：仮説の立て方、質問紙、実証方法（社会学研究における具体例の紹介）
第８週	質的調査：仮説の立て方、記録、実証方法（社会学研究における具体例の紹介、ＤＶＤ活用の例など）
第９週	実際に仮説を立ててみる：各自が関心を持つテーマについて仮説を立て、対象者や調査方法について考察する
第10週	様々な社会調査：様々な目的と利用のされ方（官公庁の統計、企業のマーケティング・労務管理、学術研究）
第11週	社会調査と政策：アメリカにおいてシカゴ学派の調査が政策に与えた影響などの例の解説
第12週	社会調査の歴史：これまでに行われてきた社会調査とその方法の遷移
第13週	社会調査の倫理：調査によって得た情報の保持、調査対象者との関係など
第14週	新しい調査方法の模索：会話分析、ビデオカメラなどの機材の利用について
第15週	全体のまとめ

評価方法

平常点と定期試験の結果によって評価を行います。

授業方法・受講上の注意

講義形式ですが、理解を深めるため折に触れ作業を行っていただきます。積極的な参加を期待します。

テキスト

渡辺久哲　著『調査データにだまされない法』創元社

参考図書など

なし。

近代現代史

専門　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位 講義　選択

伴野　泰弘

概　　要　日本近代現代史に、国際関係と経済状況から迫っていく。日本の近代は、幕末、世界列強の外圧のもとで始まり、世界体制の歩みとともに軍事力によって武装する資本主義・帝国主義として国民国家を形成していった。その展開過程では、近隣諸国への侵略と戦争をともなった。このことに、＜国民＞自身も、直接間接に、何らかの関わりをもっていた。この点に焦点を当てて、時間軸にそって講義していく。

達成目標　東西冷戦体制は終わったが、それに替わる新たな世界は、その姿を見せていない。2001年9月11日の同時多発テロ、2008年9月の国際金融危機、深刻化する地球環境問題など、日本をめぐる状況は混沌とし、民主党政権は右往左往。こんな時は、そもそもどこから問題が始まり、どのような経過を経ててここに至ったのか？歴史的アプローチが有効である。幕末期までさかのぼり、根源を探りたい。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス：あなたがたが、これまでの学校教育で受けてきた＜歴史＞というモノに対する暗黙の見方について、再検討をする。常識を疑う。
第２週	日本近代現代史の概略。その１。幕末から1945年まで。
第３週	日本近代現代史の概略。その２。1945年から2009年まで。
第４週	幕末維新期の社会情勢と人々
第５週	王政復古と国家神道
第６週	民権運動と対外認識
第７週	朝鮮半島・中国への認識と日清戦争
第８週	日露戦争と人々
第９週	明治から大正へ
第10週	第一次世界大戦と大正デモクラシー
第11週	戦後恐慌と昭和の始まり
第12週	昭和恐慌と人々
第13週	戦時体制とその崩壊
第14週	戦後改革
第15週	高度成長とは何であったか？

評価方法

提出レポートによる。レポートは、学生が、近代現代史に関わる興味をもつ事柄を題材として作成する。自身の体験や自分の身の回り（家族・友人など）での体験、ドラマ、映画、小説など、題材は自分で探し、それについて書かれた文献や資料を読み、自分なりの視点でテーマを設定し、文章化する。

授業方法・受講上の注意

単なる知識の集積で良しとしない。その時々の社会情勢の中で、なぜ人々はそのように考え、判断し、行動したのか？同時代の環境に身を置こうとする意思と想像力を発揮することを求める。同時に、今現在の諸問題に対する自分なりの判断、考え方を深める姿勢を重視する。

テキスト

宮地正人監修、大日方・山田・山田・吉田共著『日本近現代史を読む』新日本出版社、2009年、発行

参考図書など

加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年、発行。中村政則『戦後史』岩波新書、2005年、発行。ほか

文章作成演習

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位　演習　必修

宮地　忍

概　　要　「書くこと」は、「話すこと」と共にコミュニケーションの二大手段である。「書くこと」は「読むこと」につながり、これが苦手では文明人とは言えない。演習では、小作文、リポート、手紙などの書き方をトレーニングする。

達成目標　Ａ４判×１枚程度の小論文が大した苦労もなく書けるようになることを目指す。これができれば、５枚でも１０枚でも、違いはなくなる。併せて、自分の意見を発表する「話すこと」の力を養う。

教 授 計 画

第１週	演習の進め方 小レポート執筆、提出
第２週	レポート返却、講評 テキスト輪読、レポート課題を設定（週末までに提出）
第３週	同上
第４週	同上
第５週	同上
第６週	同上
第７週	同上
第８週	同上
第９週	同上
第10週	同上
第11週	同上
第12週	同上
第13週	同上
第14週	同上
第15週	レポート返却、講評 テキスト輪読、「試験レポート」（やや長文）の課題を設定（試験期間中に提出）

評価方法

「試験レポート」の評点を中心に、毎週の宿題レポートの成績、受講態度を加味して評価する。

授業方法・受講上の注意

毎回、宿題レポートのテーマを設定する。週後半までに400字詰め２～３枚にまとめて提出すること。次回の演習で返却、そのうちの何点かを講評に使う。

テキスト

為田英一郎、吉田健正著『文章作法入門』ナカニシヤ出版

参考図書など

なし

クリティカルシンキング入門

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位　講義　必修

山田　弘明

概　　要　クリティカルシンキングのあらましをテキストによって学習し、実際にやってみることによって体得します。正しい推論の組み立て方、論証の仕方（因果関係、反証例）や、間違った推論（循環論、論点先取、二分法、人身攻撃、わら人形論法）などを学びます。問題が示されるのに応じて討論し、実社会での状況を想定してケース・スタディを行います

達成目標　論理的な思考力を養い、すじ道を立ててものを考えるにはどうすればよいか、人を説得するにはどうすればよいかを学ぶことが目標です。問題処理、課題解決の技法を習得します。論理学や哲学を学んでいない学生も対象とします。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション　この授業の進め方
第２週	クリティカルシンキングとはなにか
第３週	「事実」と「意見」との違い。事実の検討と推論の仕方
第４週	クリティカルな推論とは
第５週	因果関係の吟味１
第６週	因果関係の吟味２
第７週	中間レポートの提出と研究発表
第８週	映画鑑賞
第９週	まちがった推論１
第10週	まちがった推論２
第11週	「事実」の検討１
第12週	「事実」の検討２
第13週	クリティカルシンカーの特性
第14週	クリティカルな生活のすすめ
第15週	レポートにもとづく研究発表および講評

評価方法

出席、発表、レポート２回によります。

授業方法・受講上の注意

テキストで示された章について、学生諸君のプレゼンテーションと討論を中心に演習形式でおこないます。論理学を学んでいない学生でも受講するのに問題はありません。

テキスト

道田泰司・宮元博章・秋月りす『クリティカル進化論』北大路書房

参考図書など

伊勢田哲司『哲学思考トレーニング』（ちくま新書）、E.ゼックミスタ・Ｊ．ジョンソン『クリティカルシンキング』（北大路書房）

企業ITシステム論

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　　２単位　講義　必修

近藤　成二郎

概　　要　今日の企業においてコンピュータシステムに対する依存度は日増しに強くなっている。それは企業における基幹系システムおよび情報系システムにおいてもコンピュータシステムを駆使し、戦略的見地を確立する事により経営の安定化を図っていくものである。この講義において企業情報化のためのＩＴへの取り組み、企業内への情報システムの浸透化について重点的に学習する。

達成目標　企業の情報システムへの取り組みを歴史とともに学び、その問題点と対応を把握する。更に現代のインターネットを利用した企業のIT戦略を研究する。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション　コンピュータの変遷
第２週	コンピュータ黎明期におけるトラブルと対応
第３週	UNIXシステムの台頭
第４週	米国西海岸でのコンピュータ研究
第５週	企業とコンピュータ
第６週	基幹系システム概要
第７週	企業のオープンシステムへの転換
第８週	企業の情報の活用と戦略
第９週	企業情報テクノロジー
第10週	現代の情報システムの中枢
第11週	企業情報システム開発
第12週	データベースと企業
第13週	データベース管理システム
第14週	ネットワークと企業
第15週	企業とICT（インフォメーション　コミュニケーション　テクノロジー）

評価方法

学期末の筆記試験とレポートの提出によって評点をつける。評価観点として記憶は必要最小限として、実現しようとする目的の為に適用されたメカニズムに対する合理的な理解を重視する。

授業方法・受講上の注意

受講に際し前回の講義内容についての理解が必要なため、復習を必ずすること。

テキスト

テキストは無し。必要としたときは講義時、適宜プリントを配布する。

参考図書など

講義の進行に合わせ、適宜提示する。

データ解析

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位　講義　選択　　社会調査士

田川 隆博

概　　要　講義の目的は、社会調査の基礎的データを読み取る力を身につけ、データ分析の基礎を学ぶことにある。各種社会調査データの入手方法やその読み方、計算の仕方、グラフ作成、SPSSの使用法などについて学習・実習する。数字を読んだり、計算したり、コンピュータで分析することが苦手な者でも大丈夫なようにきちんと解説するので、安心して受講してほしい。

達成目標　データ解析の入門的な技術を身につけるとともに、統計ソフトSPSSがある程度使えるようになることを目標とする。他の社会調査士資格科目につながっていくよう、数字の意味やデータの解釈と社会調査の関係についても学んでいく。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション 講義の概要についての説明、ガイダンス
第２週	社会調査の読み方 社会科学におけるデータについての事実と解釈、誤用、悪用などの関係について解説する
第３週	社会調査データの検索と収集 官公庁データや各種社会調査の検索・収集方法について解説する
第４週	データの解釈と理解１ 変数の種類、平均、分散、標準偏差について学ぶ
第５週	データの解釈と理解２ 独立変数、従属変数についての解説と、クロス集計表の読み方について学ぶ
第６週	データの解釈と理解３ 相関関係、相関係数の読み方、疑似相関について学ぶ
第７週	データの解釈と理解４ 因果関係、回帰式、回帰直線について学ぶ
第８週	データ分析の基礎１ 棒グラフ、折れ線グラフなどのグラフ作成実習
第９週	データ分析の基礎２ 箱ひげ図を使って、平均や分散の意味を視覚的に考える
第10週	データ分析の基礎３ 相関係数の求め方とサンプルデータについての分析実習
第11週	データ分析の基礎４ クロス集計の方法とサンプルデータについての分析実習
第12週	データ分析の基礎５ 単回帰分析の方法とサンプルデータについての分析実習
第13週	データ分析の基礎６ データ入力の方法と実習
第14週	データの整理とレポート作成 調査結果の解釈からレポート作成の注意点などについての解説
第15週	まとめ データ解析のさまざまな問題、課題についての解説

評価方法

出席、授業への参加度、レポート、定期試験によって評価

授業方法・受講上の注意

後半は、データの分析演習を行うことが多くなるため、特に出席を重視する。また授業の性質上、一方向的な授業ではないため、積極的な授業参加が求められる。

テキスト

使用しない。講義用資料を毎回配付する。

参考図書など

講義にて、適宜紹介する。

マルチメディア論

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位 講義　選択

横田　正恵

概　　要　PRを実施する上で人の心に訴える情報表現を心がける必要がある。また情報機器を用いたPR活動を実施する上で情報機器の扱いに慣れることは有益である。本講義では、『ヒトの感覚を考慮した表現手法』，および『情報機器を活用する上での情報表現』に重点をおき、以下の計画に沿って授業を行う。

達成目標　ヒトの感覚特性に基づいたマルチメディアの情報表現を理解し、各ファイル形式や特徴を考慮しながら画像や音声などのマルチメディア情報を扱う能力を身につける。

教 授 計 画

第１週	■ガイダンス	マルチメディアの概要
第２週	■ヒトの感覚特性	５感の役割と情報表現
第３週	■視覚と画像情報	画像情報を扱う　　画像の表現とファイル形式
第４週	■視覚と画像情報	画像処理ソフトを使ってみよう
第５週	■音声情報処理	音声情報を扱う　　音声情報の表現とファイル形式
第６週	■音声情報処理	ＤＴＭソフトでＭＩＤＩファイルを編集しよう
第７週	■音声情報処理	つづき
第８週	■画像と音声情報の統合	アニメーション・ソフトを使ってみよう
第９週	■画像と音声情報の統合	つづき
第10週	■画像と音声情報の統合	ウェブページ作成ソフトを利用しよう
第11週	■画像と音声情報の統合	つづき
第12週	◇総合演習：	マルチメディアコンテンツの作成実習
第13週	◇総合演習：	つづき
第14週	◇総合演習：	つづき
第15週	■作品の発表	作成した作品を発表する

評価方法

授業への取り組み(出席状況と課題遂行状況)，および提出課題の内容により総合的に成績を評価する。
期末試験は行わない。

授業方法・受講上の注意

授業を休んだり遅刻すると、ソフトウェアの扱いが分からなくなるから、極力、遅刻・欠席をしないよう心がける。
マルチメディア検定、ＭＩＤＩ検定等、関連する資格検定の取得を勧める。

テキスト

CG-ARTS協会「入門マルチメディア」(マルチメディア検定３級対応テキスト)　もしくは
CG-ARTS協会「マルチメディアと情報化社会」(マルチメディア検定２級対応テキスト)

参考図書など

各種ソフトウェアの解説書が参考になる。

現代文学

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位　講義　選択

概　　要　ＰＲ学にとって基礎となる「ことば」のはたらきについて一緒に考えて生きたいと思います。「現代文学」といってもあまり構えず、今人気の作家や詩、広告コピーなど幅広い材料に目を配りながら、高校では学べなかった「ことば」の素晴らしさ、奥の深さを知っていただきたいとねがっています。

達成目標　「ことばって面白いんだ」と実感していただけるようになることが、この講義の達成目標です。そのために学生の皆さんに一流の文章や詩を読んでいただくこともします。同時に、討論、話し合いを積極的に導入して、「自分で考える」とはどういうことかを体で知っていただきます。「覚える」「暗記する」のではなく、体で「ことば」と向き合えるセンスと知性を身につけることを目標にしたい。

教 授 計 画

第１週	ことばのはたらき概論講義全体の導入となる話をします。
第２週	ことばとイメージ①「イメージ」とは何か、「ことば」によってイメージがどう作られるのかを考える。
第３週	ことばと論理①すじみちを立てて考える文章について考えます。
第４週	ことばとイメージ②詩をとおして「ことば」のフシギさ、魅力を考えます。
第５週	ことばと論理②今までに体験したことがない論理的なことば使いの方法を教えます。
第６週	ことばとイメージ③「ことば」によって見えないものが見えてくるフシギさを学びます.
第７週	ことばと論理③「理屈」に強くなる勉強をします。
第８週	ことばとレトリック①魅力的な人を演出するレトリックを勉強します。
第９週	ことばとレトリック②人にやさしくなれるレトリックを勉強します。
第10週	ことばとレトリック③ユーモア、人を笑わせるレトリックを勉強します。
第11週	ことばと情報①「情報」とは何か、「ことば」はどうかかわるのかを勉強します。
第12週	ことばと情報②「情報」をしかける側から「ことば」のはたらきを考えます。
第13週	ことばとＰＲ①ＰＲにとって「ことば」のもつ意義について考えます。
第14週	ことばとＰＲ②「企画書」などＰＲの現場から「ことば」のはたらきを考えます。
第15週	ことばのエキスパートになるために講義のまとめをおこないます。

評価方法

①論理的にものを考え、表現できることを評価します。②個性的な表現への努力を評価します。③討論する能力を評価します。

授業方法・受講上の注意

①原則として毎回講義に出ること。②積極的に討論に参加すること。③できるだけノートを取るようにしてください。

テキスト

特定のテキストは使用しません。毎回資料を配布します。

参考図書など

なし

経営学入門

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位 講義　選択

吉田　洋

概　　要　この講義は経営学入門であるから、わかりやすく、興味がわく授業を展開したいと考えている。経済学がマクロの経済活動を捉えるのに対して、経営学のアプローチは時代背景を前提に個々の経営戦略、マーケティング、人的資源管理、財務会計等に照準を合わせて講義する。日本を代表する企業のケースを適宜取り上げる。

達成目標　企業とは何か、経営学とは何か、われわれの社会や生活にどのように関係しているのかを理解することを目標とする。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス　経営の３要素(ヒト、モノ、カネ)、株式会社の仕組み
第２週	起業のシミュレーション　ある企業の創業計画書
第３週	株式会社制度　株式会社の機関、株式公開のメリット・デメリット
第４週	競争戦略のマネジメント
第５週	多角化戦略のマネジメント
第６週	マーケティング　セグメンテーション、マーケティングミックス、SWOT分析
第７週	日本の雇用制度の仕組み
第８週	人的資源管理　成果主義と目標管理
第９週	生産管理、業務プロセス　業務改善の手法、QCサークル
第10週	財務会計、財務諸表の構造
第11週	経営分析　安全性･収益性の分析
第12週	IR戦略、財務情報の開示、海外のアニュアルレポート
第13週	管理会計　損益分岐点分析
第14週	情報管理　企業における個人情報保護
第15週	情報管理　マインドマップの活用

評価方法

定期試験の成績に、小テストの成績、出席状況、など平常点を加味して評価する。受講者が少人数の場合は定期試験をやめ、レポートの提出にかえる。

授業方法・受講上の注意

通常の講義形式　企業経営に関する時事問題についても解説を行う。

テキスト

プリントを配布する予定。

参考図書など

『ケースに学ぶ経営学』（有斐閣ブックス）、『１からの経営学』（中央経済社）

ビジネスコミュニケーション演習

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 演習　必修

栗林　芳彦

概　　要　ビジネスはコミュニケーションに始まり、コミュニケーションに終わる。ビジネスを成功に導くためには、高い対人コミュニケーション能力が必要不可欠である。読む・書く・話すことによってお互いの意思の疎通を図ることから始まり、相手を説得するためのプレゼンテーションスキルまで、ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーションスキルを身につける。

達成目標　・ビジネスコミュニケーションの本質を理解する。・ビジネス文章を書けるようになる。・「説得する」ためのプレゼンテーションスキルを身につける。

教 授 計 画

第１週	（はじめに）ビジネスコミュニケーションとはなにか
第２週	ビジネス文書作成
第３週	ビジネス文書作成
第４週	ビジネス文書作成
第５週	ビジネス電子メール作成
第６週	ビジネス電子メール作成
第７週	ビジネス電子メール作成
第８週	パワーポイントを使ったプレゼンテーション作成
第９週	パワーポイントを使ったプレゼンテーション作成
第10週	プレゼンテーション実演
第11週	プレゼンテーション実演
第12週	プレゼンテーション実演
第13週	プレゼンテーション実演
第14週	プレゼンテーション実演
第15週	プレゼンテーション実演

評価方法

出席状況と課題、プレゼンテーションの内容によって評価します。

授業方法・受講上の注意

マイクロソフト・ワードおよびパワーポイントの操作にある程度慣れておくこと。

テキスト

特に使用しません。

参考図書など

適宜、指示をします。

社会意識論

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　必修

川田　耕

概　　要　「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称である。講義では、この社会意識を様々な文化的表象・産物のなかに読みとるための視点と方法を、社会学・文化研究・心理学など人文的研究の諸成果を紹介しながら、明らかにしていく。

達成目標　具体的な映画・小説・物語・芸術などの文化的表象・産物の人間にとっての魅力と意味力を、社会的状況との関連のなかで、分析し洞察できるようになること。

教 授 計 画

第１週	社会意識とは何か
第２週	無意識とその表現（主にフロイト説の概説）
第３週	欲望の模倣と物語の解釈（ジラールの模倣説などの概説）
第４週	神話・昔話の心理学的解釈（ユング派に基づいて）
第５週	人格の基底にある迫害性（クライン派に基づいて）
第６週	迫害性とその社会的表現その１（外傷理論を中心に）
第７週	迫害性とその社会的表現その２（アドルノ説を中心に）
第８週	成熟のプロセスとその表現（エリクソンらのライフサイクル論などにそくして）
第９週	映像資料の鑑賞と分析・１
第10週	映像資料の鑑賞と分析・２
第11週	社会的な大状況と個人の精神・１（アルチュセールら現代思想を中心に）
第12週	社会的な大状況と個人の精神・２（カルチュラル・スタディーズを中心に）
第13週	近代社会の構造と個人の精神（ウェーバー、エリアスらを中心に）
第14週	現代社会の構造と個人の精神・１（とくに現代日本の状況を中心に）
第15週	現代社会の構造の個人の精神・２（とくに現代日本を中心に）

評価方法

授業内レポート（33%）、出席（33%）、期末の試験（33%）

授業方法・受講上の注意

受講者が少ない場合は相談のうえ、演習形式にするなど授業方法を変更する可能性がある。

テキスト

なし

参考図書など

授業中、適宜紹介する。

企業ＩＴシステム演習

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位　演習　必修

上林　俊之

概　　要　企業のＩＴへの取り組みにおいて、どの様に取り組み、進めていくかを理解するために、模擬システムの設計を実施する。実際の企業の活動の一部をイメージして、システム設計を体験することで企業のITシステムについての理解を深めることを目的とする。

達成目標　様々な企業活動および、企業をとりまく環境について調査し、発表すること。企業ITシステムの要件について、例題をもとに考察し、要件定義のプレゼンテーションができること。データーフローダイヤグラムなどを使用した簡単なシステム・デザインができること。

教 授 計 画

第１週	企業ＩＴシステムの基礎知識について学習する、また演習課題の進め方について説明する。
第２週	演習課題１の説明および実施。企業の分類。
第３週	演習課題１の発表
第４週	演習課題２の説明および実施。企業をとりまく環境について。
第５週	演習課題２の発表
第６週	演習課題３の説明。データフローダイヤグラムの作図。
第７週	演習課題３－１の実施および発表（ホワイトボード）。レストラン業務。
第８週	演習課題３－２の実施および発表（ホワイトボード）。コンビニ業務。
第９週	演習課題４の説明。野菜ジュース工場の要件定義。
第10週	演習課題４の実施。
第11週	演習課題４の発表。
第12週	演習課題５の説明。電力・ガス会社の工事管理システムのシステムデザイン
第13週	演習課題５の実施
第14週	同上
第15週	演習課題５の発表

評価方法

１　学期末試験により評価
２　演習課題のプレゼンテーション（５回）

授業方法・受講上の注意

演習課題では、パワーポイントを使用したプレゼンテーションを実施する。
ただし、演習課題３のみは、ホワイトボードを使用する。

テキスト

無し

参考図書など

授業中に適宜指示する

オーラルコミュニケーション演習

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 演習　選択

稲葉　寿美

概　　要　「言葉」を使うだけではなく、ビジネスシーンなどにおいてコミュニケーションをスムーズにとる「会話」としての日本語を学ぶ。

達成目標　会話、スピーチを初め、あらゆるオーラルコミュニケーションの表現力、説得力を高める。

教 授 計 画

第１週	発声　発音
第２週	美しい言葉使い
第３週	対話術　１ 基本のマナー
第４週	対話術　２ 話し上手は聞き上手
第５週	対話術　３ 話のネタの見つけ方
第６週	人前で話す力　１ 好感度アップの話し方
第７週	人前で話す力　２ 説得力のある話し方
第８週	人前で話す力　３ 名スピーチから学ぶ
第９週	プレゼン能力を高める　１
第10週	プレゼン能力を高める　２
第11週	表現力を高める日本語　１ いい文章から学ぶ
第12週	表現力を高める日本語　２ 実践編
第13週	心の通う会話術
第14週	アナウンス技術を使った演習
第15週	総合合評会

評価方法

出席点、態度、テスト

授業方法・受講上の注意

講義のあと実践を行う

テキスト

「魅せる話し方」（講師作成の冊子を使用）

参考図書など

授業中に適宜指示。

社会調査方法

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位　講義　選択　　社会調査士

田川 隆博

概　　要　本講義では、主として主にデータ分析の前段階での必要不可欠な知識や技能について学ぶ。社会調査によって資料やデータを収集し、整理するという、調査企画・設計、実施の方法などが主たる内容である。ミニ調査を計画し、実施することで、調査企画・設計に始まり、サンプリング、調査票の作成・実施、データの整理の仕方など、社会調査の方法論の基礎を身につける。

達成目標　ミニ調査の計画、実施などを通じて、実際に調査をする際には、どういう手順で実施するのかを理解し、自分の力で調査を計画、実施できるような力をつけることが目標である。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス 講義の目的、内容、ねらい、注意点などについて説明する。
第２週	社会調査の企画と設計 何を知りたいのか、何を調べたいのか、調査目的と調査方法の適合性などについて解説する。
第３週	標本抽出の方法 全数調査と標本調査、ランダムサンプリングなどについて解説する。
第４週	質問紙の作成１ 本講義で実施する質問紙を企画し、設計する。
第５週	質問紙の作成２ 調査目的の明確化、質問項目のワーディングなどを行う。
第６週	質問紙の作成３ あいまいな設問や誘導的な内容の質問などについて、質問紙のブラッシュアップを行う。
第７週	質問紙調査の実施 質問紙を調査対象者に実施し、回収する。
第８週	調査データの整理１ エディティングについて解説し、回収した質問紙について実際にエディティングを行う。
第９週	調査データの整理２ コーディングについて解説し、回収した質問紙について実際にコーディングを行う。
第10週	調査データの整理３ 回収されたデータを入力する。
第11週	調査データの整理４ データ・チェック（データ・クリーニング）について解説し、実際にデータ・チェックを行う。
第12週	調査データの分析１ 平均（分散）、単純集計、度数分布などについて、SPSSを用いて分析する。
第13週	調査データの分析２ クロス集計、相関係数、単回帰分析などについて、SPSSを用いて分析する。
第14週	グラフの作成 円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフなどを作成する。
第15週	まとめ レポートの作成についての注意などを説明する。

評価方法

出席、授業への参加度、レポートの提出などによって評価する。

授業方法・受講上の注意

演習が中心である。また、SPSS（Excel）によるパソコン実習もあるが、丁寧に説明するので、安心して受講してほしい。

テキスト

講義にて提示する。

参考図書など

講義にて提示する。

ジェンダー論

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　選択

重原　厚子

概　　要　「ジェンダー」とは文化的・社会的な性差を表す言葉であり、生物学的な性差は「セックス」といいます。人は必ず男か女に分類されます。顔つき、骨格、声などの身体的特徴に加え、言葉づかい、しぐさ、考え方などの文化的要素が性の判断基準になるでしょう。その文化的側面をジェンダーといい、さまざまな場面でのジェンダーに気づくことから、社会のあり方を見直してみたいと考えます。

達成目標　まず、さまざまな社会的事象や自身の経験を検証することを通して、「ジェンダー」の概念の理解を促します。自分自身のジェンダー意識に自覚的になることによって、社会に厳然と存在する「ジェンダーバイアス」を客観視できることを目指します。社会人になった時、職業を通して、自身のジェンダー意識が問われるという現実も伝えたいポイントです。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション：「ジェンダー」の概念説明の後、自身のジェンダー体験の気づきのための個人ワークを行う。
第２週	家族とジェンダー(1)：家族の定義について講義とグループ討議を行う。
第３週	家族とジェンダー(2)：家族の役割について講義とグループ討議を行う。
第４週	家族とジェンダー(3)：恋愛と結婚について講義とグループ討議を行う。
第５週	家族とジェンダー(4)：少子・高齢問題について講義とグループ討議を行う。
第６週	メディアとジェンダー(1)：活字メディアにおける女性表現について、雑誌の表紙分析などのワークの後、グループ討議を行う。
第７週	メディアとジェンダー(2)：活字メディアにおける女性表現について、雑誌の表紙分析などのワークの後、グループ討議を行う。
第８週	メディアとジェンダー(3)：漢字や文章などの言語表現におけるジェンダーについて講義とグループ討議を行う。
第９週	メディアとジェンダー(4)：アニメやコミックなどにおけるジェンダーについて、講義とグループ討議を行う。
第10週	労働とジェンダー（１）：日本における労働の男女間格差について講義を行う。
第11週	労働とジェンダー（２）：日本における労働の男女間格差について講義を行う。
第12週	労働とジェンダー（３）：日本における労働の男女間格差について講義とグループ討議を行う。
第13週	教育とジェンダー：学校教育の中のジェンダーについて講義とグループ討議を行う。
第14週	国際社会とジェンダー：グローバリゼーションや開発、地球規模での環境とジェンダーについて講義を行う。
第15週	「ジェンダー・フリー」の意味について考える：講義とグループ討議を行う。

評価方法

試験に代えてのレポートで評価する

授業方法・受講上の注意

講義に加えて、個人ワーク、グループワーク主体の参加型授業とする。

テキスト

『女性学・男性学　ジェンダー論入門』伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子著　　有斐閣
適宜プリント

参考図書など

『男女共同参画　統計データブック　日本の女性と男性』　独立行政法人国立j女性教育会館　ぎょうせい

レトリックの基礎

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位　講義　選択

山田　弘明

概　　要　レトリックとは人を説得する技法であり、弁論術や修辞学と訳されます。この授業では、１）テキストに沿って日本語のレトリックの技法を学び、２）西洋の弁論術の基礎と歴史を学習し、３）さまざまな実例に即してレトリックの実習を行います。米国の大統領などの演説と日本人の演説を比較し、また落語などの大衆芸能に日本人のレトリックが現われていることにも着目します。

達成目標　言論の技術としてのレトリックとはどういうものかを知ること、その技法を体得して自分でレトリックを使えるようにすること、が目標です。他の授業科目「文章作成法」「クリティカルシンキング入門」と関連します。

教 授 計 画

第１週	はじめに。この講義とテキストの説明。レトリックとは何か。
第２週	意味のレトリック１（隠喩など）
第３週	意味のレトリック２（誇張法など）
第４週	意味のレトリック３（婉曲法など）
第５週	形のレトリック１（反復法など）
第６週	形のレトリック２（対句法など）
第７週	構成のレトリック１（漸層法など）
第８週	構成のレトリック２（パロディーなど）
第９週	中間レポートの研究発表
第10週	西洋レトリックの発生１（アリストテレス）
第11週	西洋レトリックの発生２（ロゴスによる説得立証）
第12週	西洋レトリックの発生３（エートス・パトスによる説得立証）
第13週	映画鑑賞
第14週	レトリック演習（ディベート）
第15週	研究発表による総括および討論

評価方法

出席、プレゼンテーション、レポートによります。

授業方法・受講上の注意

講義形式ではなく学生自身の発表を中心に授業を進め、また実際にディベートの練習をします。

テキスト

瀬戸賢一『日本語のレトリック』（岩波ジュニア新書）

参考図書など

浅野楢英『論証のレトリック―古代ギリシアの言論の技術―』（講談社現代新書）、野内良三『レトリック入門』（世界思想社）、佐藤信夫『レトリック感覚』（講談社学術文庫）

社会調査実習

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 演習　選択　　社会調査士

中村　麻理

概　　要　調査の企画から報告書の作成に至る、社会調査の全過程を体験的に学習する授業である。受講生は、調査の企画、仮説構成、質問文の作成、調査の実施、フィールドノートの作成、データの整理、仮説検証、報告書の作成といった、質的調査のすべてのプロセスを経験する。なお、本講義は社会調査士資格取得のための認定科目（G）に該当する。

達成目標　社会調査の全過程を経験することを通して、調査能力の獲得を目指す。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション　フィールドワークの技法に関する講義
第２週	調査テーマ（フードマーケティングのためのフィールドワーク）に関する概説 フードマーケティング上のキーワードに関する情報収集と中間報告
第３週	同上
第４週	同上
第５週	調査設計に関する概説 仮説構築と調査項目の設定
第６週	同上
第７週	質問文の作成
第８週	聞き取り調査の実施
第９週	同上
第10週	同上
第11週	調査データの整理と分析
第12週	同上
第13週	同上
第14週	報告書の作成と調査報告
第15週	同上

評価方法

出席および議論への参加度、インタビュー調査等の活動における積極度、テープ起しなどの課題達成度、レポートの完成度などにより、総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

社会調査士認定科目（G）に該当する。社会調査士認定科目（A）～（E）で学んだことをふまえて実習を行うので、当該科目を履修済みであることが望ましい。また、９０分×２コマの授業であるが、集中して授業に参加していただきたい。

テキスト

なし

参考図書など

授業中に適宜指示する。

量的データ解析

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 講義　選択　　社会調査士

田近　一郎

概　　要　社会調査や実験・観測等を通して得られたデータから、対象に潜む要因間の関係を分析し、数量的に記述する方法を多変量解析と呼ぶ。多変量解析の計量モデルから代表的なものを取り上げてその概念と方法を解説する。具体的には、重回帰分析、因子分析、さらには主成分分析、数量化III類などを取り上げる。

達成目標　上記の重回帰分析、因子分析、主成分分析などの各種の解析手法を理解し、実際の調査の場面で適切な解析手法を適用できる技能を身に付けることが目標である。

教 授 計 画

第１週	多変量データと多変量解析の基本的な概念について説明する。次いで多変量解析の適用事例をあげる。統計学を概観し、統計学全体における多変量解析の位置づけを解説する。
第２週	複数の変量（変数）の間の共変動・共変関係について説明し、多変量解析はその中でも因果関係と相関関係に注目する解析手法であることを解説する。
第３週	多変量解析は因果系の計量モデルと相関系の計量モデルに大別できる。両者から代表的な解析手法を取り上げその概念と方法を解説する。独立変数と従属変数、顕在変数と潜在変数についてもふれる。
第４週	解析の中で使用されることの多い計算方法、特にΣ（シグマ）による総和計算、ベクトルの内積、行列の足し算、掛け算などについて実際に使うことを目的に解説する。
第５週	複数の変量（変数）の間の共変動を数値化する共分散を定義し例をあげて解説する。また、偏差・偏差積・偏差積の和・共分散の意味を具体例で確認する。
第６週	相関係数の定義と意味について解説する。相関係数を共分散から求める方法について説明し、共分散行列と相関係数行列の関係について具体例で確認しながら解説する。
第７週	様々な要因から結果を予測するための解析手法として用いられる重回帰分析を概説する。その導入として単回帰分析と回帰直線を取り上げる。相関係数などから回帰直線を求める方法を例で説明する。
第８週	２つの独立変数と１つの従属変数があるとき、他方の従属変数の影響を除外して１つの独立変数と従属変数の関係を抽出したものと解釈できる偏相関係数の求め方を解説する。
第９週	１つの独立変数単独で従属変数の値を予測するための数値である偏回帰係数、標準偏回帰係数を解説する。重回帰直線の予測性能を表す重相関係数、決定係数など、重回帰分析の概念にもふれる。
第10週	因子分析のための準備としてベクトルの復習、対称行列、対称行列の固有値の幾何学的意味、固有値分解の意味について解説する。また対称行列の具合例として相関係数行列を解釈する。
第11週	観測データをできるだけ少数の要因で説明するための解析手法として用いられる因子分析の考え方を概説する。観測変数、共通因子、誤差などが因子モデルの中で果たす役割を説明する。
第12週	因子分析の手順を解説する。相関係数行列の固有値の導出、共通因子の個数の決定から、因子負荷量の導出、共通因子を特定するところまで詳しく説明する。因子軸の回転、単純構造なども解説する。
第13週	アンケートの自由記述データの処理など質的変数間の内部構造を分析する数量化III類を解説する。量的変数を分析対象とする因子分析の手法を質的変数にどう適用するかという観点から説明する。
第14週	複数の群を対象に回帰分析的に分析する統計解析手法として、判別分析、分散分析を取り上げ概説する。類似度に基づく類型化の方法としてクラスター分析にふれる。
第15週	講義期間中に出したレポートの解説をおこなう。主成分分析を解説する。

評価方法

講義、コンピュータ演習の出席状況、講義期間中のミニレポート、期末試験の結果から総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

主に講義をおこなう。講義内容に関する理解度を確認するため、基本的なコンピュータ演習、レポートも一部取り入れる。

テキスト

使用しない。適宜プリント等を配布する

参考図書など

向後他著「統計学がわかる　回帰分析・因子分析偏」技術評論社　石村他著「入門はじめての多変量解析」東京図書　小島著「ゼロから学ぶ線形代数」講談社

視覚情報処理論

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 講義　選択

横田　正恵

概　　要　ヒトは外界情報の60～80%を視覚により得ているといわれており、視覚はヒトの五感のうち最も重要な感覚である。本講では、ヒトの視覚の機能と特性、メカニズムを理解し、DTP (Desk Top Publishing:製品カタログや取扱説明書等のドキュメントを分かりやすく作成する技術)を通して，情報伝達、情報表現に活かす手法を教授する。授業の最後にDTP作品の作成を行う。

達成目標　視覚の特性を理解して、効果的なドキュメントを作成する能力を養う。特にDTPは、あらゆる分野で役立つ技術であるから、視覚的に(見ただけで)分かりやすく綺麗なドキュメントを意識して、各種資料を作成する能力を身につける。

教 授 計 画

第１週	■ガイダンス　　視覚とは
第２週	■視覚への入力　　光の物理的性質について
第３週	■光の見え方　　光の心理的性質について
第４週	■眼球の構造　　網膜以前の構造
第５週	■眼球の構造　　網膜の役割
第６週	■網膜の細胞　　網膜での情報処理と見え方との関係
第７週	■網膜の細胞　　視細胞の役割と種類　　視細胞以降の細胞の役割
第８週	■脳での情報処理　　視覚第一野の構造と神経細胞
第９週	■色彩の表現と効果　心理物理色と知覚色の表現方法　　色彩の効果
第10週	同上
第11週	■眼球運動の役割とその解析
第12週	■DTPの基礎　　ソフトウェア、ファイル形式、フォント、画像の扱い
第13週	◇DTP作品の作成　　[演習]
第14週	同上
第15週	◇DTP作品を仕上げる　プリント工房で印刷しよう

評価方法

授業への取り組み(出席状況と課題遂行状況)、DTP作品の評価、期末試験の成績　の3項目により総合的に評価する。

授業方法・受講上の注意

ヒトが行う情報処理に興味を持って欲しい。
情報メディア学科から他学科履修する場合、授業内容が「情報ビジュアル論」と共通するので、情報ビジュアル論の単位既修得者は受講を許可しない場合がある。

テキスト

授業時にプリントを配布し、プリントに沿って授業を行う。

参考図書など

必要に応じて授業内で紹介する。

Ｗｅｂデザイン

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位　講義　選択

上林　俊之

概　　要　Webを使って誰もが情報を発信できる現代においては、情報をデザインする能力と、情報発信についての倫理観を持った人求められている。そこで本講座では、Web標準、ユーザビリティ、アクセシビリティなどの基本的概念を学習した後、実際に自らWebサイトを制作することにより、使いやすいWebデザインと、標準に従ったサイトの構築方法について重点的に学習する。

達成目標　Web標準、ユーザビリティ、アクセシビリティなどの基本事項を理解し説明できること。HTMLとCSSの役割の違いを理解し、CSSにより基本的なレイアウトを記述できること。Webサイトを、個人またはグループで制作することにより、サイト制作の基本的な流れを理解し、実施できること。

教 授 計 画

第１週	Webデザインの基礎知識について学習する。
第２週	Web標準、HTMLとCSSについて学習する。
第３週	演習課題１。簡単なレイアウトを制作する。
第４週	同上。
第５週	ユーザビリティについて、概要と事例を学習する。
第６週	演習課題２。自己紹介ページを制作する。
第７週	同上
第８週	アクセシビリティについて、概要と事例を学習する。
第９週	演習課題３。TableレイアウトをCSSレイアウトに直してみる。
第10週	同上
第11週	Webサイト構築のワークフローにつてい学習する。
第12週	演習課題４。インターネット通販のWebサイトをデザインする。
第13週	同上
第14週	プレゼンテーション１
第15週	プレゼンテーション２

評価方法

筆記試験
演習課題（４回）
関心、意欲、態度

授業方法・受講上の注意

演習課題の制作は、できるだけ時間内に実施することが望ましいが、進捗によっては、講座の時間外での制作活動が必要となる。ソフトウエアの応用的使用法はなるべく授業外で各自習得する事。

テキスト

標準Webデザイン講座　基礎編第２版

参考図書など

授業中に適宜指示する

メディア・イングリッシュI

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 演習　選択

尾崎　志津子

概　　要　マスメディアを通して、目に触れ耳にする英語を学ぶ。新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなどから様々なジャンルの最新の記事やニュース、話題のコマーシャル、映画、音楽、ドラマなどを選び、現代社会の時事、刻々と変化する世界の動き、英語圏の文化、興味、関心を英語で理解する力を養う。併せて、インターネット上に頻出の語彙や表現を学習する。

達成目標　マスメディア独特の表現や語彙を習得することで、英語を道具に、欲しい情報を様々なメディアから円滑に入手するスキルを養う。また、日常的に英語のメディアに触れる習慣を身に付け、生涯教育として英語を独学していく方法を体得する。

教 授 計 画

第１週	Introduction, Material #1 - newspaper article (familiar topic)
第２週	Material #2 - newspaper article (familiar topic), Vocabulary List 1
第３週	Material #3 - newspaper article (familiar topic), Vocabulary List 2
第４週	Guidance on Online Extensive Reading/Listening
第５週	Material #4 - online article (biographical story), Vocabulary List 3
第６週	Material #5 - online article (interview), Vocabulary List 4
第７週	Material #6 - world news (scanning for specific information), Vocabulary List 5
第８週	Material #7 - world news (scanning for specific information), Vocabulary List 6
第９週	Material #8 - world news (latest technology), Vocabulary List 7
第10週	Material #9 - TV commercial (creating advertisement words), Vocabulary List 8
第11週	Material #10 - CNN Student News (understanding the program structure), Vocabulary List 9
第12週	Material #11 - song lyrics (guessing words from context), Vocabulary List 10
第13週	Material #12 - unusual news (constructing a story), Vocabulary List 11
第14週	Material #13 - movie/drama scene (acting out)
第15週	Final Project: Presentation on the News of Your Choice

評価方法

毎回のクラスパフォーマンス（３０％）、語彙テスト（３０％）、多読/多聴（２０％）、プレゼンテーション（２０％）。パフォーマンス評価法:１．取り組み、発言・発話が良好＝2点、２．取り組み、発言・発話に困難＝1点（遅刻、居眠り、私語も1点）、３．欠席＝0点。定期試験なし。

授業方法・受講上の注意

授業は一方的な講義ではなく、インターラクティブに行われる。従って、積極的な取り組みが評価上最重視される。また、クラスのウェブサイトにアップされる課題を適切にこなし、授業外での学習習慣を身に付けることが求められる。授業には中辞典以上の英和・和英の入った電子辞書を持ってくること。

テキスト

毎回、ハンドアウトを用意する。

参考図書など

新聞英語の読解ストラテジー（英潮社）、NHK BS English News Stories: What's on Japan（金星堂）、英字新聞 Catch a Wave（浜島書店）など

科学思想史

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 講義　選択

落合　洋文

概　　要　現代社会を理解する１つの軸として科学思想史を解説する。まずアリストテレス、デカルト、ベーコン、ガリレオらの自然に対するアプローチを概観し、近代科学の方法論がどのような哲学的基盤の上に成立したかを学ぶ。また、ニュートンの『プリンキピア』や『光学』で採られた方法論をもとに近代科学の方法上の特質を理解する。

達成目標　① アリストテレスからデカルト、ベーコンにいたる自然哲学の変遷について理解する。
② 科学的帰納法の本質を理解する。
③ ニュートンのうち立てた近代科学の方法を理解する。
これらを通して科学的や合理的という言葉の意味を正しく理解すること。

教 授 計 画

第１週	イントロダクション：科学とは何か
第２週	アリストテレス自然学
第３週	デカルトの理性論（われ思う、ゆえにわれ有り）
第４週	デカルトの機械論
第５週	デカルト哲学の限界（博物学の与えた衝撃）
第６週	F.ベーコン：経験論のはじまり
第７週	イギリス古典経験論の功罪１．ロックの哲学
第８週	イギリス古典経験論の功罪２．ヒュームの不可知論
第９週	科学的帰納法のエッセンス
第10週	科学における真理の性格
第11週	ニュートン『プリンキピア』に見る〈公理的方法〉
第12週	ニュートン『光学』に見る〈分析と総合の方法〉１
第13週	ニュートン『光学』に見る〈分析と総合の方法〉２．
第14週	科学と擬似科学：骨相学の流行をめぐって
第15週	科学と倫理：クローン技術の是非をめぐって

評価方法

定期試験の成績にレポートの提出状況を加味して判断する。

授業方法・受講上の注意

講義形式で行う。

テキスト

使用しない。

参考図書など

落合洋文著『科学はいかにつくられたか――歴史から入る科学哲学』（ナカニシヤ出版）
ISBN 4-88848-773-1

メディア・イングリッシュII

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位 演習　選択

尾崎　志津子

概　　要　前期に続けて、さらにマスメディアの英語に触れる。新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなどから様々なジャンルの最新の記事やニュース、話題のコマーシャル、映画、音楽、ドラマなどを選び、現代社会の時事、刻々と変化する世界の動き、英語圏の文化、興味、関心を英語で理解する力を養う。併せて、AWLを利用し、情報入手の際必須の頻出語彙を学習する。

達成目標　マスメディア独特の表現や語彙を習得することで、英語を道具に、欲しい情報を様々なメディアから円滑に入手するスキルを養う。また、日常的に英語のメディアに触れる習慣を身に付け、生涯教育として英語を独学していく方法を体得する。

教 授 計 画

第１週	Introduction, Material #1 - newspaper article (familiar topic)
第２週	Material #2 - newspaper article (familiar topic)
第３週	Guidance on Online Extensive Reading/Listening and Academic Word List (AWL), AWL List 1.1
第４週	Material #3 - miscellaneous news (headlines), AWL List 1.2
第５週	Material #4 - world news (sequencing a story), AWL List 1.3
第６週	Material #5 - online text (YouTube comments), AWL List 1.4
第７週	Material #6 - world news (controversial issue), AWL List 1.5
第８週	Material #6 - Continued, AWL List 1.6
第９週	Material #7 - TV commercial (creating advertisement words), AWL List 2.1
第10週	Material #8 - TV show (understanding the gist), AWL List 2.2
第11週	Material #8 - Continued, AWL List 2.3
第12週	Material #9 - articles on the same topic (understanding the details), AWL List 2.4
第13週	Material #10 - blurbs (viewing the characteristics), AWL List 2.5
第14週	Material #10 - blurbs (writing a blurb), AWL List 2.6
第15週	Final Project: Presentation on the News of Your Choice

評価方法

毎回のクラスパフォーマンス（３０％）、語彙テスト（３０％）、多読/多聴（２０％）、プレゼンテーション（２０％）。パフォーマンス評価法:１．取り組み、発言・発話が良好＝2点、２．取り組み、発言・発話に困難＝1点（遅刻、居眠り、私語も1点）、３．欠席＝0点。定期試験なし。

授業方法・受講上の注意

授業は一方的な講義ではなく、インターラクティブに行われる。従って、積極的な取り組みが評価上最重視される。また、クラスのウェブサイトにアップされる課題を適切にこなし、授業外での学習習慣を身に付けることが求められる。授業には中辞典以上の英和・和英の入った電子辞書を持ってくること。

テキスト

毎回、ハンドアウトを用意する。

参考図書など

新聞英語の読解ストラテジー（英潮社）、NHK BS English News Stories: What's on Japan（金星堂）、英字新聞 Catch a Wave（浜島書店）など

環境と安全

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　講義　　選択

落合　洋文

概　　要　本講義では、環境化学的な側面から環境に対する物質の作用について学ぶ。すなわち大気、水、土壌中において、石油化学製品、ポリ塩化物（PCB、ダイオキシンなど）、農薬、多環芳香族化合物、洗剤、無機および有機金属化合物など、様々な物質が生成、変換、移動、分解するプロセスとメカニズムを理解する。またその知識を土台として化学物質が環境に与える影響を評価するための方法を学ぶ。特に安全係数の考え方を理解し、安全を確保するためにどのような観点が必要かを理解することが重要である。

マーケティング概論

専門　ＰＲ学科　　１年　前期　２単位　講義　必修

栗林　芳彦

概　　要　マーケティングとは、「モノを売る」ための考え方、技術である。マーケティングについて、基本的な考え方から最近のトレンドまでを概観し、マーケティング戦略を立案するに必要な基礎的な知識の習得を目指す。予備的な知識のないものを対象とし、ダイレクト・マーケティング、インターネットやモバイルを活用したオンラインマーケティングなどの新しい手法についても学ぶ。

達成目標　・マーケティングに関する基礎的な知識を獲得する。・様々なマーケティング手法について初歩的な知識を得る。・インターネット時代のマーケティングについて知見を蓄える。

教 授 計 画

第１週	マーケティングとはなにか
第２週	マーケティングの４Pと３C、マーケティングミックス
第３週	「ブランド」について
第４週	「市場」について
第５週	「製品」について
第６週	「ポジショニング」と「価格」について
第７週	「消費者」について
第８週	「コミュニケーション」について
第９週	「ダイレクト・マーケティング、CRM」について
第10週	「インターネットとマーケティング」について
第11週	「調査」について
第12週	事例研究
第13週	事例研究
第14週	事例研究
第15週	事例研究

評価方法

学期末試験、講義の出席状況、課題レポートの総合評価で判断

授業方法・受講上の注意

受身ではなく、積極的な参加を望みます。

テキスト

特になし

参考図書など

講義中に指示します

ＰＲ概論Ⅰ

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位　講義　必修

堂森　哲雄

概　　要　ＰＲ(パブリックリレーションズ)について、その定義や歴史、基本構造、広告との相違、ＰＲ方法について、さまざまなＰＲ事例に基づいて考察する。

達成目標　ＰＲの基本を習得する。

教 授 計 画

第１週	ＰＲの定義
第２週	ＰＲの歴史(アメリカ)
第３週	ＰＲの歴史(日本)
第４週	行政ＰＲと企業ＰＲ
第５週	ＰＲの構造
第６週	ＰＲと広告の相違
第７週	ＰＲとメデイア
第８週	ＰＲの目的
第９週	ＰＲの対象
第10週	ＰＲの素材
第11週	ＰＲの方法/ニュースリリース、記者発表会、記者懇談会
第12週	ＰＲの方法/メディアキャラバン、プレスツァー、
第13週	リスクマネジメント
第14週	リスクマネジメント
第15週	ＰＲ関連用語

評価方法

学年末試験、講義の出席状況、課題レポートの総合で判定する。

授業方法・受講上の注意

広報分野への即戦力は時代の要請であることをしっかりと認識して、将来の就職につながることを強く意識して学んでもらいたい。

テキスト

特になし

参考図書など

講義中に指示する。

ジャーナリズム史

専門　ＰＲ学科　　１年　後期　２単位　講義　選択

宮地　忍

概　　要　ジャーナリズムの歴史を概観する。活字印刷術、無線通信、コンピューターの発明などの技術発展と、社会制度の民主化や情報の受け手の大衆化が、ジャーナリズムの発展にどう影響したのかを学ぶ。

達成目標　現代の情報化社会がどのように築かれてきたのか。その歴史を知ることは、自分たちの立脚点を再確認することでもある。ＰＲ（パブリック・リレーションズ）の実践者としての素養を身につける。

教 授 計 画

第１週	ジャーナリズムとは何か。その歴史の概観。
第２週	日本のジャーナリズム前史。瓦版の時代。
第３週	欧米のジャーナリズム史（上）。ローマ帝国の時代から、グーテンベルグ革命、日刊紙の出現まで。
第４週	欧米のジャーナリズム史（下）。英米における新聞の発展。
第５週	幕末、明治の新聞草創期。
第６週	新聞速報合戦の始まり～明治中期
第７週	大正時代の新聞興隆
第８週	大衆社会とジャーナリズム。震災、ラジオの出現、雑誌の興隆。
第９週	軍部暴走の始まりとジャーナリズム。
第10週	日中戦争の発生と報道統制
第11週	太平洋戦争の時代とジャーナリズム
第12週	戦後の新聞復活と占領軍統制、テレビの登場
第13週	高度成長と技術革新
第14週	インターネット時代への転機
第15週	新たな時代の課題と展望

評価方法

レポーを中心に、出席状況、受講態度を加味して評価する。

授業方法・受講上の注意

細かな知識を記憶する必要はない。大きな流れをつかむ気持ちで、積極的な意識を持って受講すること。

テキスト

特になし。

参考図書など

春原昭彦著『四訂版　日本新聞通史』新泉社
春原昭彦著・監修『新聞の歩み――明治から現代まで』日本新聞博物館

ＰＲ概論II

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　必修

堂森　哲雄

概　　要　ＰＲ(パブリックリレーションズ)について、実際行われているさまざまなＰＲの現況を知ることで、ＰＲ活動の重要性や役割、意義を学ぶ。また、ＰＲ活動に必須な倫理感を確立する。

達成目標　ＰＲの基本を習得する。

教 授 計 画

第１週	企業ＰＲの実際
第２週	企業ＰＲの実際
第３週	ＰＲとイベントプロモーション
第４週	ＰＲとセールスプロモーション
第５週	ＰＲとインベスターリレーションズ
第６週	ＩＴ社会でのＰＲ
第７週	中小企業ＰＲ
第８週	リスクマネジメントの成功・失敗
第９週	リスクマネジメントの成功・失敗
第10週	ＰＲ会社・ＰＲ関連団体の活動
第11週	トップＰＲ
第12週	ステークホルダー
第13週	ＰＲ活動評価
第14週	ＰＲパーソンの資格
第15週	まとめ

評価方法

学年末試験、講義の出席状況、課題レポートの総合で判定する。

授業方法・受講上の注意

広報分野への即戦力は時代の要請であることをしっかりと認識して、将来の就職につながることを強く意識して学んでもらいたい。

テキスト

特になし

参考図書など

講義中に指示する。

ブランド論

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　必修

栗林　芳彦

概　　要　ブランドに関する知識は、マーケティングおよびマーケティングコミュニケーションを実施するうえで必要不可欠である。本講義では、ブランドについての基礎的な知識の取得を目指す。ブランドとはなにか、ブランドの価値とはどんなものか、ブランドを構築するにはなにが必要か、またブランドを確立するためのコミュニケーションとはどんなものか、実例を交えて説明する。

達成目標　・ブランドに関する基礎的な知識を得る。・自分の身の回りのブランドについて、その価値と戦略を読む能力を獲得する。・ブランド確立のためのコミュニケーションについて理解する。

教 授 計 画

第１週	ブランドとはなにか
第２週	ブランドエクイティとその構成要素
第３週	ブランドの価値について
第４週	様々なブランドのタイプ
第５週	ブランド体系
第６週	企業ブランドと製品ブランド
第７週	ブランド戦略
第８週	ブランド・コミュニケーション
第９週	ブランドの評価
第10週	ブランドビジョン
第11週	ケーススタディ
第12週	ケーススタディ
第13週	ケーススタディ
第14週	ケーススタディ
第15週	ケーススタディ

評価方法

出席、課題の提出状況と試験の結果で総合的に評価します。

授業方法・受講上の注意

特になし

テキスト

使用しない

参考図書など

定義、指示します。

広告概論I

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　必修

江草　普二

概　　要　朝起きて夜寝るまで、どれだけの広告と出会い、どれを認識し、何を記憶しているのか。広告は消費生活の貴重な情報源だが、同時に壮大な無駄であり、時に害悪でさえある。報道や文化や娯楽の供給源として生活に欠かせないマスメディアは、一方で膨大な広告の供給源でもある。講義では広告マーケットとして成長してきたマスメディアの足跡を追いながら、それぞれの特徴と役割を考察する。

達成目標　広告の基礎知識の会得（マスメディア産業の構造と広告の相関関係）。

教 授 計 画

第１週	広告とは何か？（！）
第２週	広告とは何か？（２）
第３週	広告とは何か？（３）
第４週	広告とメディア（１）
第５週	広告とメディア（２）
第６週	新聞と広告（１）
第７週	新聞と広告（２）
第８週	雑誌と広告（１）
第９週	雑誌と広告（２）
第10週	電波メディアと広告
第11週	ラジオと広告（１）
第12週	ラジオと広告（２）
第13週	テレビと広告（１）
第14週	テレビと広告（２）
第15週	テレビと広告（３）

評価方法

小論文、或いはレポート

授業方法・受講上の注意

パワーポイントを使ったプレゼンテーション形式で進行

テキスト

なし

参考図書など

授業中に適宜紹介

広報概論

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　必修

山見　博康

概　　要　「広報は経営である」という本質を人と会社を一致させ、講義によって論理的総合的理解を促す。加えて、対話やインタビュー、グループ討議、単独あるいはグループ演習など実践的体験を通じて、理論をリアルに学ぶことができる。近年、経営環境の悪化や不祥事の多発もあって、広報の重要性は急激に高まり、企業の広報部門には第一級の人材が投入される時代である。その為には哲学的素養も学ぶ

達成目標　１．広報の本質を理解する。２．広報業務および関連業務の全貌を把握する。３．体験によって理論のみならず、実践的素養を身につける。４．人と人との付き合い方、コミュニケーションの原点を学ぶ。５．ネット時代における新しい広報を学ぶ。　６．哲学の心を持つことの意義を考える。

教 授 計 画

第１週	広報に必要な心構え。広報の本質とその歴史。パブリックリレーションズとその内容。広報戦略の立て方。広報部の位置付け。広報の業務とは。
第２週	企業とメディアの関係。広報とメディアの関係。記事が作られるプロセス。広告と記事の違い。広報の三つの仕事。戦略的広報五つのポイント。
第３週	マスコミと広報。メディアの役割と機能。各メディアの種類と特徴。メディアの組織（新聞・テレビ）。新聞の作られ方・ニュースの作られ方
第４週	ネット時代と広報。メディアのネット戦略。ネットメディアの最新動向。マスメディアとネット専業の特性。記事の出し方。一斉発表・個別取材の方法。記者クラブとは。広報ツール。広報の効果とは。
第５週	ニュースとは何か。広報素材の発掘法。ネタのブラッシュアップ法。記事の出し方。メディアの〆切。プレスリリースの送り方。新聞の読み方実践指南。記者クラブとその活用法。
第６週	プレスリリース作成法。良いプレスリリースとは（実際のプレスリリースを検証）。プレスリリースの書き方指南。宿題：プレスリリース作成
第７週	Ｑ＆Ａの作り方。Ｑ＆Ａ作成能力を磨く。戦略的Ｑ＆Ａの作り方のコツ。Ｑの出し方グループ討議。
第８週	プレスリリースの講評。面談アレンジを重視せよ。面談アレンジの心得。立会いの心得。レクチャー付つきを増やせ。
第９週	広報担当の日々の仕事。記者とはどんな人か。メディアリレーションの具体的な方法。エンプロイーリレーションズ（社内広報）とはどんなことか。紙＋ネット社内報の意義。
第10週	ＩＲ活動について。ＩＲ活動の具体的プロセス。国際広報の留意点。コーポレートガバナンスとは。取締役の義務と企業経営。広報活動に関する法規制。コンプライアンス体制の構築。
第11週	ＣＳＲ（企業の社会的責任）とは。ＣＳＲのマネジメント。ＣＳＲが高めるブランド価値。マーケティングと広報。ブランディングの具体的方法。コーポレートレピュテーションとは。
第12週	企業危機とは何か。危機への事前対応から収束まで。緊急インタビューの実践演習。情報漏洩事件に関する演習
第13週	人は見かけではない。立ち方。歩き方などの実践演習。メディアトレーニングとは。経営者は常に練習せよ。一斉発表の実践演習。（一人ひとり模擬発表）。
第14週	広報の達人になる法。広報担当者に望まれる資質とは。真の雄弁家になれ。修養九か条。マルチ役者たれ。情熱費を払え。
第15週	まとめ

評価方法

１．受講態度、ＰＲを学ぶ者としての姿勢（時間厳守等）を最も重視する。積極性・コミュニケーション性・論理性・感受性等々、ＰＲ人に相応しい対応への資質を見る。
２．筆記テスト：「テキストに沿った記入式１００問テスト」（回答選択式）上記二つの総合判断で評価する

授業方法・受講上の注意

授業方法：講義＋対話＋討議＋実践演習を組合せ実践的に行う。
講義：「（虫食い状になった）図解記入式テキスト」を基に講義。学生は空欄への記入により一層理解を深める。一方的講義ではなく、学生への質問を多くし、考えさせる。異見尊重、切磋琢磨を推奨。自由なディスカッションを行う

テキスト

『広報・PR実務ハンドブック』、『広報・ＰＲの基本』、『広報の達人になる法』、『新聞・雑誌・テレビ・ウェブに取り上げてもらうＰＲネタの作り方』

参考図書など

講義中に適宜紹介する。

新聞論Ⅰ

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　必修

宮地　忍

概　　要　現代の新聞事情を概観する。新聞の速報性は相対的に衰えたが、第一次情報の発掘力と信頼性、一覧性の優位は揺るがない。マスコミ界における新聞の地位、ニュースの発掘・収集から配達までの工程、全国紙とブロック紙、地方紙、通信社の違いと類似などを学ぶ。併せて、テレビやネットメディアとの関係を考える。

達成目標　新聞業界の概況を、知識として身につける。ニュースに関心を持ち、新聞の記事を冷静に読む姿勢が育てばよい。

教 授 計 画

第１週	ＰＲ（パブリック・リレーシンズ）と新聞
第２週	新聞の歴史と現状、業界地図
第３週	新聞社の組織
第４週	ニュースの取材
第５週	新聞制作の流れ
第６週	新聞販売のシステム
第７週	テレビと新聞
第８週	インターネットと新聞
第９週	その他のメディア産業と新聞
第10週	新聞と広告
第11週	世論と新聞
第12週	海外の新聞事情
第13週	新聞を巡る論点１――記者クラブの功罪
第14週	新聞を巡る論点２――メディア・スクラム問題の周辺
第15週	新聞を巡る論点３――実名・匿名・犯人視報道

評価方法

試験またはリポート（中間リポートを含む）の成績に、出席状況、受講姿勢を加味する。

授業方法・受講上の注意

細部を記憶する必要はない。問題意識を持って受講し、考えること。

テキスト

天野勝文、橋場義之編著『新 現場から見た新聞学』学文社

参考図書など

藤江俊彦著『はじめてのマスコミ論』同友館

マーケットリサーチ

専門　ＰＲ学科　　２年　前期　２単位 講義　選択

栗林　芳彦

概　　要　マーケティング活動を実施するうえで、市場や消費者の動向を把握することは必要不可欠な要件である。本講座では市場調査の様々な手法とその使い分け、またデータを読み解く際に必要な基礎的な統計の知識を学ぶ。また、近年手法として定着したインターネット調査の利点と問題点についても考察する。受講者はマーケティングに関する基礎的な知識を持っていることが望ましいが必須ではない。

達成目標　・基本的なマーケティングリサーチの手法を理解する。・状況に応じた調査計画が立案できるようになる。・データを読む力をつける。

教 授 計 画

第１週	マーケティングリサーチとはなにか
第２週	マーケティング戦略と調査
第３週	マーケティング調査の種類とその特徴
第４週	定量調査の種類と分析（１）
第５週	定量調査の種類と分析（２）
第６週	定量調査の種類と分析（３）
第７週	定量調査の種類と分析（４）
第８週	定性調査の種類と分析（１）
第９週	定性調査の種類と分析（２）
第10週	定性調査の種類と分析（３）
第11週	ポストモダン調査の種類と分析
第12週	マーケティング計画と仮説の立て方
第13週	調査計画の立案
第14週	調査報告書
第15週	マーケットリサーチの現状と課題

評価方法

出席、課題の提出状況と試験の結果で総合的に評価します。

授業方法・受講上の注意

Microsoft Excelの基礎的な使い方を習得しておくこと。

テキスト

特になし。

参考図書など

適宜指示します。

マーケティングコミュニケーション論

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 講義　必修

栗林　芳彦

概　　要　マーケティングコミュニケーションとは「モノを売る」ためのコミュニケーションであり、それはマーケティング上の目標を実現するために、明確な戦略性をもって実行されなくてはならない。本講座ではその基本的な考え方と手法を概観し、コミュニケーション・プランニングに必要な基礎的な知識の習得を目指す。受講者はマーケティングに関する基礎的な知識を持っていることが望ましい。

達成目標　・マーケティングコミュニケーションの様々な手法について基礎的な知識を得る。・基本的なコミュニケーション・プランニングを理解する。

教 授 計 画

第１週	マーケティングコミュニケーションとはなにか
第２週	マーケティング戦略とコミュニケーション戦略
第３週	マーケティングコミュニケーションの主な手法
第４週	テレビの媒体特性とテレビ広告のプランニング
第５週	新聞の媒体特性と新聞広告のプランニング
第６週	雑誌の媒体特性と雑誌広告のプランニング
第７週	ラジオの媒体特性とラジオ広告のプランニング
第８週	交通媒体の特性と交通広告のプランニング
第９週	インターネットの媒体特性とインターネット広告のプランニング
第10週	メディアミックスと統合的メディアプランニング
第11週	ＩＭＣ（統合的マーケティングコミュニケーション）
第12週	ダイレクトマーケティングとＣＲＭの実際
第13週	ケーススタディ
第14週	ケーススタディ
第15週	ケーススタディ

評価方法

出席、課題の提出状況と試験の結果で総合的に評価します。

授業方法・受講上の注意

自分の身の回りのマーケティングコミュニケーションに常に注意を払うこと。

テキスト

使用しません。

参考図書など

適宜紹介します。

広告概論II

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 講義　必修

江草　普二

概　　要　何故そのタレントを使い、その映像を使うのか。何故そのメディアなのか、何故そのタイミングなのか。誰が作るのか。どやって作るのか。予算はいくらか。広告を見る者には、広告主とメディアしか提示されないが、背景には夥しい数の人間や企業や集団が介在している。そして同程度の思惑や利害も潜んでいる。講義では、広告が企画されてゆくプロセスを、広告会社の組織と照合しながら辿ってゆく。

達成目標　広告の基礎知識の会得（広告産業の構造と広告開発のプロセス）

教 授 計 画

第１週	プロモーション・メディアと広告（１）
第２週	プロモーション・メディアと広告（２）
第３週	Ｗｅｂと広告（１）
第４週	Ｗｅｂと広告（２）
第５週	広告の構成
第６週	広告戦略（１）
第７週	広告戦略（２）
第８週	クリエイティブ戦略（１）
第９週	クリエイティブ戦略（２）
第10週	クリエイティブ戦略（３）
第11週	メディア戦略（１）
第12週	メディア戦略（２）
第13週	ＳＰ戦略（１）
第14週	ＳＰ戦略（２）
第15週	ワークフロー

評価方法

小論文、或いはレポート

授業方法・受講上の注意

パワーポイントを使ったプレゼンテーション形式で進行

テキスト

なし

参考図書など

授業中に適宜紹介

広報各論

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 講義　必修

尾関　謙一郎

概　　要　企業広報の最終的な目標は企業とステークホルダー（顧客、株主、社員等）との間に良好なコミュニケーション関係を構築し、それを維持することである。企業広報には、大別すると、「社内広報」、「対外広報」、「製品広報」がある。本講義では、それぞれの業界ごとに違う広報に関して様々な具体例を示しながら広報活動のありかたを解説する。

達成目標　広報は業界ごと、会社ごとにその方法や組織が違う。またそれぞれにメディアリレーションの仕方も違ってくる。これを理解し、広報ＰＲの全体像を把握する

教 授 計 画

第１週	業界別広報の特徴
第２週	同上
第３週	自動車産業の広報
第４週	同上
第５週	金融業界の広報
第６週	同上
第７週	小売、デパート流通業界の広報
第８週	同上
第９週	電機業界、食品業界、製薬業界の広報
第10週	同上
第11週	アメリカ、プロスポーツ、エンターテイメントの広報
第12週	同上
第13週	大学、メディア、行政機関の広報
第14週	同上
第15週	まとめ

評価方法

２週に一度その授業内容についてのレポートを課す。その場で書いたものを採点する予定。最後に課題レポートも求める予定

授業方法・受講上の注意

授業内容のレポートは要点を把握する力、文章を短時間でまとめる力なども身に着く。社会力も付けるつもりで授業を受けること

テキスト

「メディアと広報」尾関謙一郎著（宣伝会議刊）

参考図書など

特になし

メディアと法

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位　講義　必修

宮地　忍

概　　要　メディア、コミュニケーション関連の仕事を取り巻く法律、制度を学ぶ。「言論、出版その他一切の表現の自由」は民主主義の基本であるが、個人個人の権利を守るためには、自ずと相互の制約がある。それぞれのテーマを巡る議論の経緯や、問題点も考える。

達成目標　関連法体系の概要を知識として持ち、「常識」的な判断を下せるようにする。諸価値の衝突を考量するリーガルマインドも、身につける。併せて、新聞、テレビなどの関連ニュースを読み解く素養を養う。

教 授 計 画

第１週	講義の進め方。概論（法とは何か）。
第２週	法を巡る時事テーマ（「司法制度改革と裁判員制度」など）
第３週	表現の自由
第４週	知る権利
第５週	情報公開制度
第６週	「表現の自由」の制約
第７週	名誉の保護、名誉毀損
第８週	プライバシーの保護
第９週	知的財産権の概要
第10週	著作権
第11週	「わいせつ表現」の禁止、青少年の保護
第12週	個人情報の保護
第13週	放送と法律
第14週	インターネットと法律
第15週	情報と法の潮流

評価方法

試験を中心に、レポート、出席状況、受講態度を加味して評価する。

授業方法・受講上の注意

随時に指名、感想・意見を求める。抜き打ちの出欠再点検、小テストを行うこともある。

テキスト

なし

参考図書など

松井茂記『マス・メディア法入門』日本評論社

新聞論II

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位　講義　必修

宮地　忍

概　　要　新聞の取材、制作は、どのように行われているのか。おおむね隔週、現場記者などの関係者を招いて体験的な新聞論を聞く。翌週、まとめの講義とレポート作成を行う。中京地区の新聞社やテレビ局、記者クラブの見学も企画、マスコミ機能への理解を深める。見学会などの都合で曜日・時間を変更、振り替え授業扱いとする場合もある。

達成目標　記者がいかにしてニュースを取得、評価、評論しているのか、取材先との友好、緊張関係をどう維持しているのか。ＰＲ（パブリック・リレーションズ）の現場を実感、問題意識を持つことを目標とする。こうした素養が、ＰＲの世界の原点となるだろう。

教 授 計 画

第１週	講義の進め方、総論
第２週	編成記者の世界
第３週	前週講義のまとめ。レポート作成。
第４週	経済記者の世界
第５週	前週講義のまとめ。レポート作成。
第６週	市政記者の世界
第７週	前週講義のまとめ。レポート作成。
第８週	写真記者の世界
第９週	前週講義のまとめ。レポート作成。
第10週	企画取材の世界
第11週	前週講義のまとめ。レポート作成。
第12週	英語取材の世界
第13週	前週講義のまとめ。レポート作成。
第14週	イベント企画の世界
第15週	全体のまとめ。レポート作成。

評価方法

レポートの内容と出席状況、受講態度をほぼ均等に評価する。レポートは、最終まとめ分を中心に、毎回分も加味する。

授業方法・受講上の注意

教授計画は予定であり、状況によって随時変更される。外部講師を招く場合には、「何でも聞いてみよう」という積極的な受講態度が、特に望まれる。そのためには、漠然と時間に流されるのではなく、メモを取りながら聞く姿勢が必要になる。

テキスト

必要に応じて、プリント、レジュメを配布する。

参考図書など

藤江俊彦『はじめてのマスコミ論』同友館
天野勝文、橋場義之編著『新 現場から見た新聞学』学文社

放送論

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 講義　必修

榎本　勝人

概　　要　ラジオ放送の始まりから現在のテレビまでの放送の歴史を学び、放送を中心とした情報産業が日本、世界に果たしてきた役割と重要性を理解し、今後の放送産業の行方を探る。中でも地上波テレビのデジタル化による設備投資がテレビ局の経営に与える影響、インターネット産業の急成長から来る放送と通信の融合、その関連法案改正の動きなどを観察しながらテレビ局の仕事内容を勉強する。

達成目標　マスメディアの中で現在、最も影響力を持っている日本のテレビ放送は2011年7月にアナログ放送が終了し、デジタル放送だけになるが、これによってインターネット産業との関係がどのようになっていくのか。テレビ局をめぐる産業に明日はあるのか。そのためにテレビ局はどうすればよいのかなどを考えるための知識と考察力を養う。

教 授 計 画

第１週	放送の歴史、放送の種類、テレビ産業の発展
第２週	広告産業の変遷とその中におけるテレビ産業のシェア
第３週	放送法、電波法など放送関連法の仕組みと問題点
第４週	放送倫理と放送基準、ＢＰＯ（放送倫理・番組向上機構）の仕組みと役割
第５週	ＮＨＫの組織と民間放送局との相違
第６週	民間テレビ局の組織
第７週	テレビ編成の仕組み、番組考査
第８週	著作権の仕組みと法改正の動き
第９週	テレビ営業の仕組みと実際、ＣＭ考査
第10週	ネットワークの仕組みと今後
第11週	ビデオリサーチ社の視聴率の計測法、視聴率とテレビ局の収益との関係
第12週	番組製作技術と放送実施技術
第13週	ラジオ放送の番組編成と営業。災害とラジオ放送
第14週	世界と日本の地上波テレビのデジタル化、デジタル化後の電波利用
第15週	インターネット産業の急成長と放送と通信の融合

評価方法

レポート提出、出席と授業中の討論への参加度合いも加味する。

授業方法・受講上の注意

資料プリントと資料ビデオ、インターネットを利用する。

テキスト

なし　毎回資料プリントを配布する

参考図書など

講談社現代新書　『テレビ進化論』　境　真良　　ちくま新書　『次に来るメディアは何か』　河内　孝

マーケットリサーチ演習

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位 演習　選択

栗林　芳彦

概　　要　本講座では実際のマーケティング・リサーチの調査設計、実施およびその結果の分析を行う。定量、定性調査に加え、いわゆるポストモダンな調査に関しても演習を実施する。作業を通じて調査実務に必要なスキルの習得を目指す。受講者は「マーケットリサーチ概論」をすでに受講していることが望ましい。

達成目標　・マーケティング戦略に基づいた調査計画の立案ができるようになる。・データを分析し、戦略の方向性を導き出すことが出来るようになる。B28

教 授 計 画

第１週	ガイダンス
第２週	調査テーマに関するディスカッション
第３週	調査計画作成
第４週	定量調査の設計
第５週	調査票の作成と集計計画
第６週	結果の読み込みと分析手法
第７週	定量調査報告書作成
第８週	グループインタビューの設計
第９週	インタビューフロー作成
第10週	グループインタビューの実施
第11週	グループインタビュー報告書作成
第12週	総合報告書の作成
第13週	総合報告書の作成
第14週	総合報告書の作成
第15週	発表と講評

評価方法

出席と作成した成果物で評価する。

授業方法・受講上の注意

積極的に議論に参加すること

テキスト

使用しない。

参考図書など

適宜、指示をします。

放送番組・ＣＭ論

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位　講義　選択

榎本　勝人

概　　要　放送番組の種類と内容、その放送時間帯や狙う視聴者層などの関連を知る。番組制作とＣＭ製作の変遷や番組担当者、プロデューサー、ディレクター、その他スタッフのインタビューなどから番組制作やＣＭ製作の実際を学ぶ。番組やＣＭの企画書の書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。

達成目標　番組制作、ＣＭ製作の実際を理解したうえで、実際に企画書を作り、プレゼンテーションをして、お互いに評価しあう。

教 授 計 画

第１週	テレビ番組の種類、分類、相違。番組基準と番組審議会
第２週	報道番組の種類、報道局の組織、ニュース取材・ニュース番組製作の実態、その他の報道制作番組
第３週	情報番組とワイドショーの変遷と現状、キャスター、ＭＣの役割
第４週	ドキュメンタリー番組の制作
第５週	教育番組と教養番組、子供番組
第６週	ドラマ製作の実際、プロデューサーの役割、ディレクターと脚本家の生の声
第７週	映画番組とテレビ局の映画製作
第８週	バラエティ番組の歴史と製作実態、プロデューサーインタビュー
第９週	音楽番組の変遷と現状
第10週	スポーツ番組の種類、スポーツニュースの製作とスポーツ中継番組の実際
第11週	特別番組の種類、その実態、当たる番組の秘訣
第12週	各番組と視聴者層、スポンサーとの関係、視聴率とＣＭ
第13週	ＣＭ製作と制作費、ＣＭの種類（タイム、スポット）
第14週	企画書の書き方とプレゼンテーション
第15週	企画書とプレゼンテーションに対する相互批評

評価方法

レポート、企画書づくりとプレゼンテーション、その相互批評での議論参加の状況も加味する

授業方法・受講上の注意

授業は資料プリントの配布と資料ＤＶＤ鑑賞で行うが、テレビ番組をよく見て感想を考えてほしい。

テキスト

なし。プリント配布

参考図書など

特になし

中小企業論

専門　ＰＲ学科　　２年　後期　２単位　講義　選択

吉田　洋

概　　要　経営学入門よりさらに研究課題を掘り進め、企業の本質に迫る。中小企業は下請けというマイナスイメージで見られがちであるが、日本経済の活性化を担ってゆく存在として、グローバル化、情報化、ネットワーク化のもとに自立的発展を模索しなければならない。この講義ではこのような視点から中小企業のあり方や問題点を探る。

達成目標　社会における中小企業の役割を理解すること。ビジネスマンとして知識・教養を身につけ、またマネジメントできる人材になるべく努力すること。

教 授 計 画

第１週	ガイダンス　中小企業は何か　中小企業研究の視点
第２週	中小企業とベンチャー企業
第３週	中小企業政策の展開
第４週	中小企業の資金調達構造
第５週	下請けシステムと中小企業
第６週	下請代金支払遅延等防止　事例研究
第７週	中小企業の経営組織
第８週	中小企業のマネジメントと人材育成
第９週	情報化と中小企業
第10週	東海地区の中小企業の特質　小テスト
第11週	地元商工会とブランド化戦略　稲沢
第12週	中小企業経営者の講話
第13週	商店街の衰退と中小企業
第14週	フードビジネスと中小企業
第15週	中小企業に関する課題の提出とプレゼン　質疑応答

評価方法

授業の中で取り上げた内容を中心に課題を課す。その内容をプレゼンし、質疑応答を行う。それに、出席状況、小テストなど平常点を加味して評価する。

授業方法・受講上の注意

通常の講義形式　工場見学や中小企業経営者の講話も可能ならば予定する。その場合、あらためて連絡する。

テキスト

なし

参考図書など

植田浩史『中小企業・ベンチャー企業論』（有斐閣コンパクト）受講者の要望に応じ授業中に適宜指示する。

ＰＲプランニング演習

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 演習　必修

尾関　謙一郎

概　　要　企業ＰＲ、社内ＰＲ、製品ＰＲの3つの分野で具体的な案件に基づき、ＰＲ戦略構築、具体的なＰＲプラン策定、実施後の評価方法をグループに分かれて組み立て、検証する。具体的には危機管理、製品、ブランド、社内広報、ＣＳＲのジャンル別にプランを組み立てる。

達成目標　21年に学んだ１）広報の目的設定、２）成功要因と障壁の検討、３）調査４）ターゲット層の決定、５）広報戦略の構築、６）戦略的広報プログラムの構築、そして、７）広報プログラム実施後の結果の検証、という広報を成功に導くための7つの重要な項目の設定・実施方法を踏まえ、いかなる広報活動にも応用できる力を備えること。

教 授 計 画

第１週	ＰＲプランニングの方法
第２週	広報計画の種類
第３週	具体的な作成方法
第４週	危機管理プランニング演習
第５週	同上
第６週	同上
第７週	製品・ブランド広報プランニング演習
第８週	同上
第９週	同上
第10週	社内広報プランニング演習
第11週	同上
第12週	同上
第13週	ＣＳＲ、社会貢献広報プランニング演習
第14週	同上
第15週	同上

評価方法

３週に一回、提出するグループ学習によるプランニングの作品を評価する。

授業方法・受講上の注意

講義に加え、多くのグループ学習があるので、積極的に参加すること。自分の意見をはっきりと述べると共に、グループの仲間の意見を尊重し、固定観念にとらわれず、自由な発想で、広報戦略を立案することが望まれる。

テキスト

「メディアと広報」（尾関謙一郎著）宣伝会議刊

参考図書など

特になし

マーケティングコミュニケーション演習

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 演習　必修

栗林　芳彦

概　　要　前学期での「マーケティングコミュニケーション論」で学んだ様々な手法を用いて実際に「モノを売る」ためのコミュニケーションを企画する。また、企業がどのようなマーケティングコミュニケーションを実施しているのかを分析、評価する。

達成目標　・マーケティングコミュニケーションについてさらに深い理解を得る。・簡単なマーケティングコミュニケーションのプランが作成できるようになる。

教 授 計 画

第１週	マーケティングコミュニケーションの手法（復習）
第２週	事例分析「消費財のマーケティングコミュニケーション」（１）
第３週	事例分析「消費財のマーケティングコミュニケーション」（２）
第４週	事例分析「消費財のマーケティングコミュニケーション」（３）
第５週	事例分析「生産財のマーケティングコミュニケーション」（１）
第６週	事例分析「生産財のマーケティングコミュニケーション」（２）
第７週	事例分析「中小企業のマーケティングコミュニケーション」（１）
第８週	事例分析「中小企業のマーケティングコミュニケーション」（２）
第９週	コミュニケーションプラン作成演習
第10週	コミュニケーションプラン作成演習
第11週	コミュニケーションプラン作成演習
第12週	コミュニケーションプラン作成演習
第13週	コミュニケーションプラン作成演習
第14週	コミュニケーションプラン作成演習・プレゼンテーション
第15週	プレゼンテーションの講評と総括

評価方法

出席と作成課題の内容で評価する。

授業方法・受講上の注意

「マーケティングコミュニケーション論」を受講していること。パワーポイントにある程度習熟していること。

テキスト

使用しない。

参考図書など

適宜、指示をします。

メディアリレーションズ概論

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位　講義　必修

殿村　美樹

概　　要　メディアとのコミュニケーションの基礎を学び、メディアごとのコミュニケーションから記者クラブとのつきあい方、記者発表の組み立て方まで、基本的なメディアリレーションズ構築を、実例を挙げながら解説する。

達成目標　メディアリレーションズの概要と手法について、リポートにまとめられるレベル到達を目指す。

教 授 計 画

第１週	メディアリレーションズとは
第２週	メディアリレーションズの手法
第３週	新聞とのコミュニケーション
第４週	雑誌とのコミュニケーション
第５週	テレビとのコミュニケーション（前半）
第６週	テレビとのコミュニケーション（後半）
第７週	記者クラブについて
第８週	記者発表について
第９週	プレスリリースの作り方
第10週	プレスリリース演習
第11週	記者発表の組み立て方
第12週	記者発表の組み立て演習
第13週	メディアリレーションズまとめ（前半）
第14週	メディアリレーションズまとめ（後半）
第15週	リポート作成

評価方法

出席とリポートで評価します。

授業方法・受講上の注意

出席重視。リポートは必ず提出してください。

テキスト

適宜指示します。

参考図書など

適宜指示します。

危機管理論

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位　講義　必修

栗林　芳彦

概　　要　現代の企業にとって事故や不祥事などをいかにして未然に防ぐかは重要な課題であるが、同時にこのような危機が発生したときにどのようにしてダメージを最小限にとどめるかもまた同様に重要である。特にネガティブなマスコミ報道によって企業の評判を損なわれることを防ぐにはどうすべきかという点を中心に危機管理のあり方を考える。

達成目標　・企業が危機に対してどのように対処すべきか、基本的な考え方を学ぶ。・危機発生時におけるマスコミの反応とそれに対する対処を学ぶ。

教 授 計 画

第１週	企業にとって危機とはなにか？
第２週	企業の危機管理体制
第３週	企業の不祥事とマスコミの反応
第４週	ネガティブ報道と企業の評判
第５週	報道分析
第６週	コンプライアンスと企業の評価
第７週	ＣＳＲ
第８週	リスク・マネジメント（１）
第９週	リスク・マネジメント（２）
第10週	ケーススタディ
第11週	ケーススタディ
第12週	ケーススタディ
第13週	ケーススタディ
第14週	ケーススタディ
第15週	ケーススタディ

評価方法

出席と定期試験で評価する。

授業方法・受講上の注意

新聞を毎日読む、テレビのニュース番組を見るなどして、企業報道に常に注意を払うこと

テキスト

使用しない。

参考図書など

適宜、指示をします。

広告各論Ⅰ

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位　講義　必修

江草　普二

概　　要　広告は性善説に立てば、大衆に豊かな消費生活を提案し流行や文化を送り届けるロマンチックな存在である。だが、性悪説に立つとすれば、羊の皮を被った狼であり口の上手いペテン師である。いずれにせよ情報社会に生きる現代人は広告から逃れることはできない。薬にも毒にもなる広告に対して消費者はどんな能力を身につける必要があるのか。各事例を通して広告を読み解く方法を探りたい。

達成目標　広告を客観的に評価し分析する力を養成する。

教 授 計 画

第１週	「電通」（１）
第２週	「電通」（２）
第３週	広告産業の現状と課題（１）
第４週	広告産業の現状と課題（２）
第５週	ブランドは誰のものか（１）
第６週	ブランドは誰のものか（２）
第７週	国家とブランド
第８週	戦争と広告（１）
第９週	戦争と広告（２）
第10週	戦争広告代理店（１）
第11週	戦争広告代理店（２）
第12週	宗教と広告（１）
第13週	宗教と広告（２）
第14週	広告雑学（１）
第15週	広告雑学（２）

評価方法

小論文、或いはレポート

授業方法・受講上の注意

パワーポイントを使ったプレゼンテーション形式で進行

テキスト

なし

参考図書など

授業中に適宜紹介

ＰＲマネジメント演習

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位　演習　選択

堂森 哲雄

概　　要　ＰＲ活動の具体的な業務を学ぶ。企業トップあるいは広報担当者という設定で実際にＰＲ計画を立案・作成する。作成されたものに基づき検証・ディスカッションを行う。

達成目標　ＰＲマネジメント力を養成する。

教 授 計 画

第１週	ＰＲ計画の基本
第２週	ＰＲ計画/目標・課題
第３週	ＰＲ計画/手法・メディア選定
第４週	ＰＲ計画/企画立案・スケジュール作成
第５週	ＰＲ計画/予算の決め方、ニュースリリースの実際
第６週	マーケティングＰＲ計画の作成
第７週	マーケティングＰＲ計画の検討
第８週	企業ＰＲ計画の作成
第９週	企業ＰＲ計画の検討
第10週	ＰＲ会社のＰＲ企画の立案
第11週	ＰＲ会社のＰＲ企画の検討
第12週	モニター・クリッピングの実際
第13週	ＰＲ活動効果測定の実際
第14週	ＰＲ活動効果測定の検討
第15週	ＰＲ関連法について

評価方法

講義の出席状況、講義中での取り組み方、学年末試験の総合で判定する。

授業方法・受講上の注意

ＰＲパーソンに目指すという意識で取り組んでもらいたい。

テキスト

特になし。レジュメを講義ごとに配布。

参考図書など

講義中に指示する。

イベント企画演習

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 演習　選択

沖本　渉

概　　要　イベントの企画・制作を実際の現場で学習し、またイベントそのものに参加体験　することでイベント制作の実際的な手法や企画のヒントを学ぶ。さらに、イベント成功にむけたPR展開の企画・実施について、実際のイベント運営を通して体験する。

達成目標　１．イベントの企画・制作の基礎知識を学ぶ。2．イベントPRの実際を体験する。3．イベントでつながるコミュニケーションを学ぶ。

教 授 計 画

第１週	講座概要と履修の心構え
第２週	イベントの企画と運営⇒グランドデザインの実習
第３週	イベント現場体験（5/3～4エキトピアまつり）
第４週	民族楽器アンクロン習得（下町映画出演にむけて）
第５週	民族楽器アンクロン習得（下町映画出演にむけて）
第６週	下町映画出演（円頓寺の養護ホームにアンクロン演奏で慰問）
第７週	下町映画出演（円頓寺の養護ホームにアンクロン演奏で慰問）
第８週	下町映画のPR計画立案、稲沢まつりイベントの基本計画立案　　※夏休み課題へ
第９週	下町映画のPR実施計画および稲沢まつりイベントの実施計画立案
第10週	稲沢まつりイベントの実施制作
第11週	稲沢まつりイベントの実施制作
第12週	稲沢まつりイベントの実施制作
第13週	稲沢まつりイベントの実施制作（前日準備）
第14週	稲沢まつりイベントの実施制作（前日準備）
第15週	稲沢まつりイベントの実施（制作・運営）

評価方法

出席、プロジェクトへの取り組み態度およびレポートで評価をする。

授業方法・受講上の注意

本講座は10月17日に実施される稲沢祭りでのイベントの実施と事後レポートをもって完結する。実際にイベントを運営することになるので積極的、自発的に取り組むこと。

テキスト

特に使用しない。

参考図書など

適宜、指示する。

ネットＰＲ

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 講義　選択

梅田　享伯

概　　要　ＰＲ会社のネットＰＲや企業・行政機関・メディアのホームページを事例に、インターネットＰＲの仕組みや現状など全般的な知識を習得する。メール文章作成やブログの書き方などを実習する。ＰＲ活動を進めるにあたって、インターネットＰＲが重要な役割を果たす機能であることを理解する。

達成目標　(1) Webサイトのマネージメントを行なえる。
(2) ブログやユーチューブ、ツイッターなどのソーシャルメディアサービスを説明できる。
(3) アクセス解析より企業サイトの改善すべき課題を明確に指摘できる。
(4) WebPRの効果測定を行なえる。

教 授 計 画

第１週	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法などをオリエンテーションします。企業広報のネット活用事例を参考にネットPRの現状と可能性を紹介します。
第２週	PRパーソンに求められるサイトマネージメントを学びます。広報担当が担うべきWebサイト統括の役目を理解し、その実行に必須ともいうべき各部門間のリレーション手法を紹介します。
第３週	ネットPRのPDCAサイクル運用方法に関する実践的な知識を、プロジェクトマネジメントの手法とともに紹介します。
第４週	GoogleAnalyticsを用いて、アクセスログの効果的な解析方法を学び、Web戦略と戦略と現状サイトとの乖離を抽出し、改善すべき課題と手法を明確にする方法を紹介します。
第５週	WWebブランディングの重要性とその指標について紹介し、Webブランド価値を向上させる方法を、企業サイトなどの具体例を挙げて紹介します。
第６週	Webサイトにおけるデザイン・ビジュアルへの理解を深めます。
第７週	Webサイトのユーザビリティー／アクセスビリティの指標設計を紹介します。
第８週	Webサイトにおける（1）クリエイティブ（2）情報設計（3）機能効果の3つに対応したバランススコアの作成方法と、その数値目標と定量化の重要性を紹介します。
第９週	SEO対策の指標設計の方法と、検索キーワードの選定方法、組み合わせによるアプローチ方法を紹介します。
第10週	Webサイトにおける情報環境評価を定め、SEO対策として重要な外部施策の方法を紹介します。
第11週	ニュースリリース配信サービスの潮流と、PPC（ペイ・パー・クリック）広告への理解を深めます。
第12週	既存メディアが行なうウェブサービスと、単独系のウェブメディアとの比較分析を行い、それぞれの性質に合わせたWebキャンペーンの実施方法を紹介します。
第13週	ブログやSNS、YouTube、Flickr、twitter、Second Lifeなどのソーシャルメディへの理解を深めます。
第14週	WebPRの効果測定法を紹介します。
第15週	情報セキュリティの考え方と予防策、ウィルス・スパムによる被害例とその対策を紹介します。

評価方法

定期試験：60%　授業レポート：20%　授業態度・授業内プレゼン：20%（%は評価割合）
定期試験では知識・理解について、授業レポートでは思考・判断を、そして授業態度・授業内プレゼンにおいて科目への関心・意欲、技能といった面を評価します。

授業方法・受講上の注意

第1週目を除き、授業の始め20分間を前週の授業レポートの発表とします。レポートでは、授業で理解したことを論理的かつ、自分の価値観をどの程度加えて発展させ、他人に伝えればよいかなどの判断力を養います。

テキスト

特定のテキストは使用せず、必要に応じプリント・資料を配布します。ただし、下記の参考図書のいずれかでも目を通しておくと、事業の理解がより深まるでしょう。

参考図書など

ウェブPR力 マスコミに頼らないPRとマーケティングの新ルール70(出版:翔泳社) 宣伝費をネット広報にまわせ（出版：時事通信社）

ジャーナリズム特論

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 講義　選択

宮地　忍・榎本　勝人

概　　要　新聞各紙の記事や社説の比較、テレビ各局の番組考察を通して、メディア・リテラシーの力を養う。こうした学習をじて、情報一般やデマ、噂話への対処能力を育てると共に、時事問題の基本知識を身に付ける。

達成目標　活字メディアと放送メディアの相違を理解した上で、ニュースや論説を客観的に読み解く力を身につける。「社会人の会話」に参加できる常識を養い、併せて、社会の事象を小論文にまとめる筆力を磨く。

教 授 計 画

第１週	講義の進め方。前半７週は、「放送メディア」を中心に講義する。 阪神大震災で、被災者への情報提供で威力を発揮したテレビ、ラジオ。
第２週	国境を越える放送の力（ベルリンの壁崩壊など）
第３週	世論を動かす映像（脱北者の救済など）
第４週	放送とナショナリズム（アルジャジーラの登場など）
第５週	ニュース番組の編成と視聴率
第６週	放送メディアの内側１
第７週	放送メデイアの内側２
第８週	後半７週は、新聞の記事・論説を素材に解説と討議を行う。テーマの要約と各自の意見、感想のまとめを毎週の宿題にする。「素材１」に基づく、解説と討議。
第９週	前回素材のテーマに関し、宿題の「意見・感想のまとめ」を学生各自が発表。 新たな「素材」に基づく、解説と討議。
第10週	同上
第11週	同上
第12週	同上
第13週	同上
第14週	同上
第15週	前回素材のテーマに関し、宿題の「意見・感想のまとめ」を学生各自が発表。 全体のまとめ。

評価方法

「試験レポート」の評点、受講態度、出席状況を、概ね均等に評価する。

授業方法・受講上の注意

学生にも、活発な発言、意見表明を求める。そのためには、漠然と聴講するのではなく、メモを取り、考えながら聞く姿勢が必要になる。講義の予定順序は、変わることがある。

テキスト

なし

参考図書など

『現代用語の基礎知識』自由国民社　など

映像制作論

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位 講義　選択

榎本　勝人

概　　要　カメラ、音声、照明、編集など映像制作に必要な知識と技術、作業の基礎を学び、ときにはプロに直接教わりながら、自らも実際にカメラを持って外に出て撮影をし、編集をして、お互いに批評したり、プロから評価をしてもらう。

達成目標　最終的に授業参加者全員で一つの作品を作り、コンテストなどに出品するなど発表する。

教 授 計 画

第１週	プリプロダクション＝映像制作の流れ、企画、調査、シナリオハンティング、構成作り、シナリオ作成、スケジュール作成など
第２週	カメラの種類、撮影機材、画面サイズ、カメラの高さ、カメラワーク、映像構成の基礎的パターン、レンズの特性、ホワイトバランス、ゼブラ信号
第３週	ニュース映像取材、撮影上の基本
第４週	プロのカメラマンから教わる
第５週	ドキュメンタリー、紀行・観光映像製作＝ロケハン、シナリオ変更、コンテ作り、肖像権や人権に対する配慮と注意
第６週	屋外撮影
第７週	ポストプロダクション、映像編集の実際、編集の技法、ＭＡ
第８週	編集のプロから教わる
第９週	映像と音声の著作権、パブリックドメインの活用、ナレーション
第10週	ＭＡの実際を見学
第11週	映像編集①
第12週	スタジオ制作の映像制作、スポーツなどライブ中継の映像制作
第13週	スタジオあるいは中継見学
第14週	映像編集②
第15週	映像作品完成、相互批評

評価方法

レポート、完成した映像作品に参加した度合いと授業時の討論参加割合などで判断

授業方法・受講上の注意

できるだけ映像制作を実際に行うことを優先するので、この授業計画通りではない場合もある。

テキスト

今のところなし、プロから推薦してもらうこともある。

参考図書など

特になし

メディアリレーションズ演習

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位 演習　必修

殿村　美樹

概　　要　メディアリレーションズ概論の知識をもとに、実際にメディアリレーション企画をつくり、演習する。

達成目標　名古屋文理大学のＰＲ企画をつくり、メディアリレーションズまでマスターすること。

教 授 計 画

第１週	ＰＲ企画のつくり方解説
第２週	ＰＲ企画演習
第３週	メディアリレーションズの計画の立て方
第４週	メディアリレーションズの計画演習
第５週	プレスリリース作り方復習
第６週	プレスリリース演習
第７週	新聞とのコミュニケーション実習（前半）
第８週	新聞とのコミュニケーション実習（後半）
第９週	雑誌とのコミュニケーション実習（前半）
第10週	雑誌とのコミュニケーション実習（後半）
第11週	テレビとのコミュニケーション（前半）
第12週	テレビとのコミュニケーション（後半）
第13週	演習まとめ
第14週	演習まとめ
第15週	リポート作成

評価方法

出席とリポートで評価します。

授業方法・受講上の注意

出席重視。リポートは必ず提出してください。

テキスト

特になし。

参考図書など

適宜指示します。

危機管理演習

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位　演習　必修

山田　弥一・栗林芳彦

概　　要　広報は危機管理に始まって危機管理に終わるといわれるほど重要なテーマである。対応の仕方によっては、企業が窮地に陥ることがある。本講義を通してより、具体的なケースを検討することにより、危機管理に対する意識を深めることとする。

達成目標　演習を通して、危機管理（不祥事発生時の対応・広報、コンプライアンス等）の重要性を理解・習得する。

教 授 計 画

第１週	企業の不祥事　（１）
第２週	企業の不祥事　（２）
第３週	企業の不祥事　（３）
第４週	企業の不祥事　（４）
第５週	企業の不祥事　（５）
第６週	企業の不祥事　（６）
第７週	企業の不祥事　（７）
第８週	社員の不祥事と企業リスク　（１）
第９週	社員の不祥事と企業リスク　（２）
第10週	社員の不祥事と企業リスク　（３）
第11週	大学生の犯罪と大学リスク　（１）
第12週	大学生の犯罪と大学リスク　（２）
第13週	大学生の犯罪と大学リスク　（３）
第14週	大学の不祥事
第15週	国家機関の不祥事

評価方法

学期末試験、講義の出席状況、受講態度等を基に判定する。

授業方法・受講上の注意

演習の発表・討論を中心に進める。積極的に発表・討論をすること。

テキスト

講師作成のテキスト。

参考図書など

講義中に適宜紹介する。

広告各論II

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位　講義　必修

江草　普二

概　　要　市場経済をソフト面で牽引してきたのが広告である。とすれば、市場経済が抱える矛盾や脆さや危険性もまた広告は内包していることになる。マスコミ産業で繰り広げられる視聴率競争や部数競争は視聴者を埒外に置き、ジャーナリズムの自立を危くさせている。本講では、広告産業をジャーナリズムのパートナーと捉え、「ジャーナリズムとコマーシャリズム」の相関について考察を加える。

達成目標　広告を客観的に評価し分析する力を養成する。

教 授 計 画

第１週	ＣＭと世相（１）
第２週	ＣＭと世相（２）
第３週	ＣＭと世相（３）
第４週	広告の世界情勢（１）
第５週	広告の世界情勢（２）
第６週	視聴率の考察（１）
第７週	視聴率の考察（２））
第８週	広告人（１）
第９週	広告人（２）
第10週	ＣＭ音楽の世界（１）
第11週	ＣＭ音楽の世界（２）
第12週	広告公害
第13週	広告のルール（１）
第14週	広告のルール（２）
第15週	広告のルール（３）

評価方法

小論文、或いはレポート

授業方法・受講上の注意

パワーポイントを使ったプレゼンテーション形式で進行

テキスト

なし

参考図書など

授業中に適宜紹介

マスコミュニケーション論

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位 講義　必修

江草　普二・榎本　勝人

概　　要　マスコミュニケーションの見張りの機能、討論の機能、教唆の機能など送り手の研究を行うと同時に、マスコミュニケーションの受け手の調査などを行い、マスメディアと世論との関係、プロパガンダやオピニョンリーダー、流言・蜚語、扇動とアジテーション、政治利用などマスコミュニケーションの問題点を分析、研究する。

達成目標　活字メディア、電波メディア、コンピューターネットワークメディアのマスコミュニケーションとしての社会的責任を理解し、それぞれのメディアの現状はどうなっているのか、そのために各メディアはどのような対策を立てているかを学ぶ。そして今後、各マスメディアはどう変化していくのか、どのように融合していくのかを予測する。

教 授 計 画

第１週	コミュニケーションとは。コミュニケーションの分類。マスコミュニケーションとは。マスコミュニケーションの多様性。
第２週	マスコミュニケーションの伝達過程。マスコミュニケーションの特質と活動。マスコミュニケーションの機能とその分析。
第３週	マスコミュニケーションの効果と世論。受け手の影響と沈黙。
第４週	情報の流れと影響の流れ。ピープルズ・チョイス。プロパガンダとオピニョンリーダー。
第５週	パーソナルコミュニケーションとマスコミュニケーション。メディア・コミュニケーションの発展。
第６週	受けてから考えるマスコミュニケーション。世論操作と大衆説得。政治的プロパガンダとファシズム。
第７週	説得的コミュニケーション。広告と大衆説得。消費行動と広告。広告の分類、機能、分析。
第８週	広報、パブリシティ、ＰＲ
第９週	流言、蜚語、噂、デマ、ゴシップ、風評被害、情報の氾濫、都市伝説。
第10週	活字メディア①新聞
第11週	活字メディア②雑誌、週刊誌、出版物。
第12週	電波メディア①ラジオ、テレビ。
第13週	テレビ報道の検証
第14週	コンピューターネットワークの時代。
第15週	メディア・コングロマリッドとは。メディアの将来。

評価方法

期末のレポート提出により評価するが、授業中の討論への参加状態も加味する。

授業方法・受講上の注意

その時々のニュースや話題に関心を持ち、日頃から新聞や雑誌、ニュース情報番組などから詳しい情報を得て、問題点や疑問を抱く心を養ってほしい。

テキスト

特になし。その時々の新聞、雑誌、ニュース番組などがテキスト。

参考図書など

『キーワードで読み解く現代のジャーナリズム』（大月出版２００５）

ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特論

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位　講義　選択

剣持　隆

概　　要　コーポレートコミュニケーションによって企業ブランドや企業価値が向上する。コーポレート・コミュニケーションは時代の流れによって役割や機能が変化してきた。マーケティングコミュニケーション、コンプライアンス、環境コミュニケーション、ＩＲなどとコーポレートコミュニケーションの関係を整理しながらＣＳＲにいたるプロセスを学び重要なポイントを理解する。

達成目標　企業にとってコーポレートコミュニケーションは今後ますます重要な位置を占めていくことを理解できるようにする。また、コーポレートコミュニケーションの担当者は企業や社会について幅広い知識が要求されるので、基本的な教養を自らつけていく態度能力に気づき、組織のなかで豊かな人間性を養う基本的な姿勢を理解してもらう。

教 授 計 画

第１週	パブリック・リレーションズとコーポレートコミュニケーション
第２週	マーケティング・コミュニケーションとコーポレートコミュニケーション
第３週	アメリカにおけるコーポレートコミュニケーション
第４週	企業の社会的責任とコーポレートコミュニケーション
第５週	ＣＩとコーポレートコミュニケーション
第６週	企業市民とコーポレートコミュニケーション
第７週	メセナ・フィランスロピーとコーポレートコミュニケーション
第８週	企業イメージ・企業ブランドとコーポレートコミュニケーション
第９週	企業の社会貢献活動とコーポレートコミュニケーション
第10週	環境コミュニケーションとコーポレートコミュニケーション
第11週	コンプライアンスとコーポレートコミュニケーション
第12週	ＩＲとコーポレートコミュニケーション
第13週	コーポレート・ガバナンスとコーポレートコミュニケーション
第14週	ＣＳＲとコーポレートコミュニケーション（理論）
第15週	ＣＳＲとコーポレートコミュニケーション（ケーススタディ）

評価方法

学年末試験、講義の出席状況、課題レポートの総合で判定する

授業方法・受講上の注意

ＰＲプランナー資格（日本ＰＲ協会）取得を目指す。コーポレート・コミュニケーションは企業を活性化する重要な仕事であることを豊富な実例を紹介しながら解説する。そうした仕事を支える理論が形成されつつあることを知ってもらって好奇心を刺激する。

テキスト

授業中に適宜指示する。資料を用意する。

参考図書など

『ＣＣ戦略の理論と実践』『経営を支える広報戦略』

番組分析論

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位　講義　選択

榎本　勝人

概　　要　新聞のテレビ欄を見ると、定型的な枠組みがある。各局が大体同じ時間帯に同じ種類の番組を流している。そうしたなかでも各局の独自性を表そうとしている面が見て取れるが、その理由は視聴率のためであったり、その局の得意分野のためだったり、様々な理由がある。これらを具体的な番組を見ながら分析する。また「BPO、放送倫理・番組向上機構」や各局の番組審議会の最新情報を分析する。

達成目標　テレビ番組編成全体の分析から各ジャンルごとの分析、その上で個別の番組の分析を行い、それらが視聴率獲得や番組の評価などにどのように関連しているのかを研究する能力を養う。同時に自分の分析や研究結果を発表する能力、他人の発表を批判する力を養う。

教 授 計 画

第１週	放送倫理基本綱領、民放連の放送基準、テレビ局の番組基準と番組審議会
第２週	BPO、放送倫理・番組向上機構
第３週	番組分析の手法
第４週	ゴールデン番組の調査と分析①
第５週	ゴールデン番組の調査と分析②
第６週	報道番組の分析①
第７週	報道番組の分析②
第８週	ワイドショー・情報番組の分析①
第９週	ワイドショー・情報番組の分析②
第10週	バラエティ番組の分析①
第11週	バラエティ番組の分析②
第12週	番組分析課題決定
第13週	番組分析の発表、討論①
第14週	番組分析の発表、討論②
第15週	番組分析の発表、討論③

評価方法

授業での発表や討論を見て評価する。

授業方法・受講上の注意

具体的な番組を見て、それを分析することが多いので、平素から番組を録画して、よく見てほしい。

テキスト

なし

参考図書など

今のところなし

ＰＲ専門演習Ⅰ

専門　ＰＲ学科　　３年　前期　２単位　演習　必修

学科担当教員

概　　要　ＰＲの専門的な知識や技能を修得・発展させるために必要なreading、writing、reportingの基礎的な方法を身につける。

達成目標　与えられた課題に対して文献等を調査し、報告書をまとめることができるようにすること。

教 授 計 画

第１週	文献調査の方法（その１）
第２週	文献調査の方法（その２）
第３週	文献調査の方法（その３）
第４週	文献調査の方法（その４）
第５週	文献調査の方法（その５）
第６週	文献の読み方（その１）
第７週	文献の読み方（その２）
第８週	文献の読み方（その３）
第９週	文献の読み方（その４）
第10週	文献の読み方（その５）
第11週	レポートの書き方（その１）
第12週	レポートの書き方（その２）
第13週	レポートの書き方（その３）
第14週	レポートの書き方（その４）
第15週	レポートの書き方（その５）

評価方法

毎回の出席と課題の提出状況による。

授業方法・受講上の注意

毎回出席すること。必ず課題を提出すること。積極的にディスカッションに参加すること。

テキスト

使用しない。

参考図書など

適宜紹介する。

ＰＲ専門演習II

専門　ＰＲ学科　　３年　後期　２単位　演習　必修

学科担当教員

概　　要　ＰＲの専門的な知識や技能を修得・発展させるために必要なreading、writing、reportingの実践的な力を身につけるとともに、与えられたテーマに即して調査研究を行う。またディスカッションを通じて自分の考えを深めることの重要さを理解する。

達成目標　個々に与えられた課題に対して文献等を調査し、指定された様式の報告書をまとめることができるようにすること。ディスカッションを通じて自分の考えを深める方法を身につけること。

教 授 計 画

第１週	個別的な研究テーマに関する調査と討論（その１）
第２週	個別的な研究テーマに関する調査と討論（その２）
第３週	個別的な研究テーマに関する調査と討論（その３）
第４週	個別的な研究テーマに関する調査と討論（その４）
第５週	個別的な研究テーマに関する調査と討論（その５）
第６週	文献の読解と抄録の作成（その１）
第７週	文献の読解と抄録の作成（その２）
第８週	文献の読解と抄録の作成（その３）
第９週	文献の読解と抄録の作成（その４）
第10週	文献の読解と抄録の作成（その５）
第11週	個別的な研究テーマに関するレポートの作成（その１）
第12週	個別的な研究テーマに関するレポートの作成（その２）
第13週	個別的な研究テーマに関するレポートの作成（その３）
第14週	個別的な研究テーマに関するレポートの作成（その４）
第15週	個別的な研究テーマに関するレポートの作成（その５）

評価方法

毎回の出席と課題の提出状況による。

授業方法・受講上の注意

毎回出席すること。必ず課題を提出すること。積極的にディスカッションに参加すること。

テキスト

使用しない。

参考図書など

適宜紹介する。

広告表現論

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　講義　　選択

江草　普二

概　　要　広告にはあらゆる表現が集約されている。文字、画像、映像、音楽。演技、歌、舞踊、朗読。アニメ、コメディ、ドキュメンタリー。ジェスチャー、アジテーション、デモンストレーション。講義では、広告という限られた時間/空間が、どんな狙いで、どのような表現によって組み立てられてゆくのか、さらにその表現は何故人の心を掴み時に心酔させるのか、個別の例を用いて検証してみたい。主なテーマ：「文字と広告」「絵画と広告」「音楽と広告」「映像と広告」「印刷と広告」「宗教と広告」「政治と広告」「世相と広告」「流行と広告」「広告クリエイターと広告」

広告史

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　講義　　選択

江草　普二

概　　要　市場の発生と共に広告は生まれ、市場の拡大に伴って広告は発展を遂げてきた。講義では、有史以前から歴史を紐解き、人類がコミュニケーションをどうやって作り上げ熟達させていったのか、どういう背景でメディアが誕生し広告媒体として利用されるようになっていったのか、その中で広告はそのように変容し多様化していったのか。それらを時系列的に、かつ幅広い視点で捉えてゆきたい。

メディア効果論

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　講義　　選択

榎本　勝人

概　　要　まずメディアの本来の役割を学び、その視点でメディアがこれまで社会にどのような影響を及ぼしてきたか、実態との比較から、メディアの社会に与える力の大きさを考察する。また国家の独立や体制の変化、戦争や紛争などの国際問題にメディアの果たしてきた役割を考える。このほか新聞、雑誌などの活字メディアとラジオ、テレビなどの放送メディアの影響力の違いを分析し、アメリカ大統領選挙におけるテレビの役割と日本の選挙との違い、政治家と新聞、テレビの関わりなどからメディアの様々な影響力について学ぶ。

地域メディア論

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　講義　　選択

柴田　篤行

概　　要　一般にメディアと言えば、マスメディアを念頭に語られることが多いが、マスメディアにおいても地域情報は重要な情報の一つとして伝達されてきた。もちろん、地域情報を専門に伝達する手段としてミニコミ誌やフリーペーパー、県域テレビ・ラジオは存在したが、近年コミュニティーラジオが登場し、また、インターネットの普及により、媒体は以前にも増して多岐にわたるようになった。

地域メディア論では、伝達の対象、目的と適切な媒体の関係、また、そのメディアでの表現方法を考察する。

産業論ＩＩ

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　講義　　選択

江草　普二

概　　要　企業には創業の理由がある。起業家の夢、地域のニーズ、時代の要請。理由は理念となって企業の方向性を決める。その方向に突き進む企業もあれば転換を図る企業もある。歴史を切り拓く企業もあれば歴史に埋もれてゆく企業もある。講義では、確固たるブランドを築き上げた幾つかの企業を取り上げ、創業から現在に至る歩みや主力商品誕生の経緯、企業戦略や今後の課題について検証を加えたい。ブランドを失墜させた企業についても俎上に載せてみたい。対象企業（仮）：「ソニー」「トヨタ」「アサヒビール」「資生堂」「読売新聞」「フジテレビ」「ナイキ」

ＮＰＯ・ＮＧＯ実務

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　講義　　選択

重原　厚子

概　　要　はじめに、「ＮＰＯ・ＮＧＯ」が発生した社会的、歴史的背景について講義する。さまざまなＮＰＯ・ＮＧＯ関係者の体験談を聞くことも、学生の概念理解の一助になろう。行政や企業とは異なる第３のセクターとしてのＮＰＯ・ＮＧＯの理解の後、ＮＰＯ法人設立のプロセスの模擬体験を行う。書類作成にあたっては、実際のＮＰＯ・ＮＧＯへの取材を促したい。法人設立の趣旨を検討し、具体的な団体の運営をイメージするという一連の行動を通して、ＮＰＯ・ＮＧＯの社会的意義を学ぶことを目的としたい。

卒業演習

専門　ＰＲ学科　　４年　　前期　　２単位　　演習　　必修

学科担当教員

概　　要　ＰＲ専門演習で習得した能力を駆使し、担当教員から与えられる小課題について自主的に調査・研究を繰り返す中で、その学問の研究方法に習熟させる。こうした過程を経て各学生は個別に卒業研究のテーマを選定する。また担当教員の指導のもとに実際的なゼミ運営を行う。

卒業研究

専門　ＰＲ学科　　４年　　後期　　２単位　　演習　　選択

学科担当教員

概　　要　卒業演習で選定した卒業研究のテーマについての研究を行い、卒業論文、卒業作品又は卒業レポート等を作成し、それらの成果について発表する。

インターンシップ

専門　ＰＲ学科　　3･4年 前･後　２単位 実習　選択
期

概　　要　インターンシップは自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業において就業体験を行うことである。働くことの意味を学ぶと同時に社会を見る目を養う絶好の機会である。また大学で学んだ知識や経験が実社会でどのように活用されているのかを実感することによって、その後の学習への意欲を高めることが出来る。実施期間は夏期および春期休暇中の１ー２週間である。

達成目標　・会社の仕組み、仕事の流れを把握する。・会社で働くためにはどのような知識が必要かを把握し、今後の勉学の指針とする。

教 授 計 画

第１週	研修希望者募集説明
第２週	事前研修
第３週	研修
第４週	研修
第５週	研修
第６週	研修
第７週	研修
第８週	研修
第９週	研修
第10週	研修
第11週	研修
第12週	研修
第13週	研修
第14週	事後指導
第15週	報告会

評価方法

研修先の評価表、研修レポート、報告会の報告内容による。

授業方法・受講上の注意

インターンシップは受入先に多大な負担をかけて行われることよく自覚して真摯に研修を受けること。

テキスト

なし

参考図書など

研修先や研修内容によって適宜指示する。